別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備考
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ ｼﾞｮｶﾞｸｲﾝ 学校法人　ノートルダム女学院	
フリガナ 大学の名称	ｷｮｳﾄ ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ ｼﾞｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 京都ノートルダム女子大学	
大学本部の位置	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	
大学の目的	教育基本法及び学校教育法の規定に基づき，深く専門の学芸を教授研究するとともに，カトリック精神及び日本文化の優れた伝統を体し，教養高き女性を育成して我が国文化の推進に寄与する。	
新設学部等の目的	多様な文化を理解し、異文化に対する態度、プレゼンテーション力やICT活用力を養うと同時に、海外留学等による実践的な学びと、生涯を通して人が成長し、社会性を獲得し、周囲を巻き込んで課題解決する力を身につける一連の営みに関する理論的な学びとを往還しながらライフキャリア形成のあり方を考究し、文学、社会学、心理学、教育学など関連する人文諸科学による学際的・総合的な教育研究を行う。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次人	人			年　月 第　年次	
学部等連係課程実施基本組織 女性キャリアデザイン学環	4	30	0	120	学士 （キャリアデザイン）	文学関係、家政関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係	令和7年4月 第1年次	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
連係協力学部　（Ⅰ） 国際言語文化学部								京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
英語英文学科	4	55	0	220	学士 （文学）	文学関係	昭和36年4月 第1年次	
英語英文学科から女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員数		25	0	100				
国際日本文化学科	4	35	0	140	学士 （人間文化）	文学関係	平成12年4月 第1年次	
国際日本文化学科から女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員数		0	0	0				
連係協力学部　（Ⅱ） 現代人間学部								京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地
生活環境学科	4	70	0	280	学士 （生活環境）	家政関係、社会学・社会福祉学関係	平成29年4月 第1年次	
生活環境学科から女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員数		5	0	20				
心理学科	4	100	0	400	学士 （心理学）	文学関係	平成29年4月 第1年次	
心理学科から女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員数		0	0	0				
こども教育学科	4	70	0	280	学士 （こども教育）	教育学・保育学関係	平成29年4月 第1年次	
こども教育学科から女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員数		0	0	0				
計		－	－	－				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	令和7年4月名称変更 　社会情報課程→社会情報学環 社会情報学環〔定員増〕（　10）（令和7年4月） 国際言語文化学部 　国際日本文化学科〔定員減〕（△ 5）（令和7年4月） 現代人間学部 　生活環境学科〔定員減〕（△ 5）（令和7年4月）	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	学部等連係課程実施基本組織 女性キャリアデザイン学環	94科目	60科目	27科目	181科目	124単位

	学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	女性キャリアデザイン学環	人 ＜5＞ 【4】 (9)	人 ＜0＞ 【2】 (2)	人 ＜0＞ 【2】 (2)	人 ＜0＞ 【0】 (0)	人 ＜5＞ 【8】 (13)	人 ＜0＞ 【0】 (0)	人 ＜0＞ 【76】 (76)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	＜4＞ 【4】 (8)	＜0＞ 【2】 (2)	＜0＞ 【2】 (2)	＜0＞ 【0】 (0)	＜4＞ 【8】 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人 （注） ＜＞の中の数は学部等連係課程実施基本組織のみに従事する教員の数。 【】の中の数は学部等連係課程実施基本組織と連携協力学部等を兼ねる教員の数。
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)			
	小計（ａ～ｂ）	＜4＞ 【4］ (8)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【0］ (0)	＜4＞ 【8］ (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	＜1＞ 【0］ (1)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜0＞ 【0］ (0)	＜1＞ 【0］ (1)			
	計（ａ～ｄ）	＜5＞ 【4］ (9)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【0］ (0)	＜5＞ 【8］ (13)			
	計	＜5＞ 【4］ (9)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【2］ (2)	＜0＞ 【0］ (0)	＜5＞ 【8］ (13)	＜0＞ 【0］ (0)	－ － －	
既設分	国際言語文化学部　英語英文学科	1 【2］ (3)	2 【1］ (3)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	3 【3］ (6)	0 【0］ (0)	0 【85］ (85)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	1 【2］ (3)	2 【1］ (3)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	3 【3］ (6)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	小計（ａ～ｂ）	1 【2］ (3)	2 【1］ (3)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	3 【3］ (6)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	計（ａ～ｄ）	1 【2］ (3)	2 【1］ (3)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	3 【3］ (6)			
	国際言語文化学部　国際日本文化学科	4 【2］ (6)	1 【0］ (1)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	5 【2］ (7)	0 【0］ (0)	0 【94］ (94)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 【2］ (6)	1 【0］ (1)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	5 【2］ (7)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 4人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 【2］ (6)	1 【0］ (1)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	5 【2］ (7)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 【2］ (6)	1 【0］ (1)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	5 【2］ (7)			
	計	5 【4］ (9)	3 【1］ (4)	0 【0］ (0)	0 【0］ (0)	8 【5］ (13)	0 【0］ (0)	－ － －	

既設分	現代人間学部　生活環境学科	5 【2】 (7)	2 【2】 (4)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	7 【4】 (11)	0 【0】 (0)	0 【95】 (95)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 【2】 (7)	2 【2】 (4)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	7 【4】 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 【2】 (7)	2 【2】 (4)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	7 【4】 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	計（ａ～ｄ）	5 【2】 (7)	2 【2】 (4)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	7 【4】 (11)			
	現代人間学部　心理学科	4 【3】 (7)	2 【0】 (2)	3 【1】 (4)	0 【0】 (0)	9 【4】 (13)	0 【0】 (0)	0 【101】 (101)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 【3】 (7)	2 【0】 (2)	3 【1】 (4)	0 【0】 (0)	9 【4】 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 【3】 (7)	2 【0】 (2)	3 【1】 (4)	0 【0】 (0)	9 【4】 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 【3】 (7)	2 【0】 (2)	3 【1】 (4)	0 【0】 (0)	9 【4】 (13)			
	現代人間学部　こども教育学科	4 【1】 (5)	5 【0】 (5)	2 【1】 (3)	0 【0】 (0)	11 【2】 (13)	0 【0】 (0)	0 【84】 (84)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 【1】 (5)	5 【0】 (5)	2 【1】 (3)	0 【0】 (0)	11 【2】 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	4 【1】 (5)	5 【0】 (5)	2 【1】 (3)	0 【0】 (0)	11 【2】 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	計（ａ～ｄ）	4 【1】 (5)	5 【0】 (5)	2 【1】 (3)	0 【0】 (0)	11 【2】 (13)			
	計	13 【6】 (19)	9 【2】 (11)	5 【2】 (7)	0 【0】 (0)	27 【10】 (37)	0 【0】 (0)	－ － －	

既設分	社会情報学環	<2> 【6】 (8)	<1> 【1】 (2)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<3> 【7】 (10)	<0> 【0】 (0)	<0> 【84】 (84)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	<2> 【6】 (8)	<1> 【1】 (2)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<3> 【7】 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人 令和7年4月名称変更届出
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	<2> 【6】 (8)	<1> 【1】 (2)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<3> 【7】 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)			
	計（ａ～ｄ）	<2> 【6】 (8)	<1> 【1】 (2)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<3> 【7】 (10)			
	計	<2> 【6】 (8)	<1> 【1】 (2)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<3> 【7】 (10)	<0> 【0】 (0)	－ － －	
合計		<7> 18 【10】 (35)	<1> 12 【3】 (16)	<0> 5 【2】 (7)	<0> 0 【0】 (0)	<8> 35 【15】 (58)	<0> 0 【0】 (0)	－ － － －	

職種	専属	その他	計
事務職員	36人 (36)	27人 (27)	63人 (63)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	2 (2)	2 (2)	4 (4)
その他の職員	6 (6)	1 (1)	7 (7)
指導補助者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	44 (44)	30 (30)	74 (74)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
校舎敷地	26,434 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	26,434 ㎡
その他	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	0 ㎡
合計	26,434 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	26,434 ㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	27,323 ㎡ (27,323 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	27,323 ㎡ (27,323 ㎡)

教室・教員研究室	教室	教員研究室	大学全体
	74 室	13 室	

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	連係協力学部（大学全体）の数
学部等連係課程組織 女性キャリアデザイン学環	260,000〔81,500〕 (249,738〔 80,550 〕)	480〔10〕 (425〔1〕)	4,818〔618〕 (4,818〔618〕)	18〔18〕 (15〔15〕)	148 (148)	0 (0)	
計	260,000〔81,500〕 (249,738〔 80,550 〕)	480〔10〕 (425〔1〕)	4,818〔618〕 (4,818〔618〕)	18〔18〕 (15〔15〕)	148 (148)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	2,004 ㎡	0 ㎡	2,109 ㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	－ 千円	－ 千円
	共同研究費等		1,500 千円	1,500 千円	1,000 千円	1,000 千円	－ 千円	－ 千円
	図書購入費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円	－ 千円	－ 千円
	設備購入費	1,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	1,000 千円	1,000 千円	－ 千円	－ 千円
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
			1,380 千円	1,180 千円	1,180 千円	1,180 千円	－ 千円	－ 千円
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入　等					

	大学等の名称	京都ノートルダム女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	国際言語文化学部						0.51		京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	
	英語英文学科	4	55	－	297	学士(文学)	0.44	昭和36年度		令和6年度定員減 入学(△25人) 編入学（△2人）
	国際日本文化学科	4	35	－	188	学士(人間文化)	0.63	平成12年度		令和6年度定員減 入学(△15人) 編入学（△3人）
	現代人間学部						0.66			
	生活環境学科	4	70	－	280	学士(生活環境)	0.63	平成29年度		
	心理学科	4	100	－	400	学士(心理学)	0.73	平成29年度		
	こども教育学科	4	70	－	280	学士(こども教育)	0.58	平成29年度		
	学部等連係課程実施基本組織 社会情報課程	4	20	－	40	学士(社会情報)	0.75	令和5年度		
	人間文化研究科 （修士課程）									
	応用英語専攻	2	8	－	16	修士(応用英語)	0.31	平成14年度		
	人間文化専攻	2	3	－	6	修士(人間文化)	0.33	平成17年度		
	心理学研究科 （博士前期課程）									
	臨床心理学専攻	2	10	－	20	修士(心理)	0.90	平成17年度		
	（博士後期課程）									
	心理学専攻	3	4	－	12	博士(心理)	0.08	平成17年度		
附属施設の概要		該当なし								

（注）
1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（女性キャリアデザイン学環）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員（助手を除く）以外の教員	備考
共通教育科目	教養科目	人間と文化	日本文学	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			外国文学	1･2･3･4後			2		○			1						※演習
			日本近現代史	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			東アジア近現代史	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			ヨーロッパ近現代史	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			文化人類学	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			哲学入門	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			日本の歴史と文化	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	7	－
		人間と社会	暮らしの法律学	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			憲法と人権	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			暮らしの経済学	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			国際関係論入門	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			社会学概論	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			ジェンダー論	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		人間と自然	身近な自然科学	1･2･3･4前			2		○					1				※演習
			暮らしの統計学	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			生命倫理	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			暮らしと電気・エネルギー	1･2･3･4後			2		○								1	※演習　集中
			日常の中の数学	1･2･3･4前			2		○								1	※演習　メディア
			自然災害からの防災・減災	1･2･3･4後			2		○					1				※演習
			小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	1	0	0	4	－
		人間と情報	情報演習Ⅰａ	1前	○		1			○							3	※講義
			情報演習Ⅰｂ	1前	○		1			○							1	※講義　メディア
			情報演習Ⅱ	1･2前･後			1			○							2	※講義
			情報処理	2前･後			2			○							2	※講義
			情報の科学と倫理	1前			2		○								1	※演習　メディア
			ＳＮＳコミュニケーションスキル	1後			2		○								1	※演習　メディア
			ＡＩとデータサイエンス入門	1･2後			2		○								2	※演習
			ＡＩとデータサイエンス	2･3前			2		○								1	※演習
			アルゴリズム基礎	2前			2		○								1	※演習
			情報技術リテラシー	2後			2		○								1	※演習
			プログラミング演習	2後			2			○							1	※講義
			小計（11科目）	－	－	0	19	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		教育の基礎	教育原理	1前			2		○								1	※演習
			教育史	2後			2		○			1						※演習
			教育社会学	2前			2		○								1	※演習
			教育心理学	1前			2		○								1	※演習
			小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	3	－
	基盤科目	カトリック教育	キリスト教学	1前	○	1			○								1	※演習
			キリスト教音楽概論	1前	○	1			○								1	※演習
			聖書とキリスト教	1後	○		2		○								1	※演習
			キリスト教と日本文化	2後			2		○								1	※演習
			キリスト教思想	2前			2		○								1	※演習
			キリスト教美術	2後			2		○								1	※演習　メディア
			キリスト教音楽	1後	○		2		○								1	※演習
			小計（7科目）	－	－	2	10	0	－			0	0	0	0	0	5	－
		自己の形成	ボランティア概論	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			アカデミック・ライティング	1･2･3･4後			2		○								1	※演習
			キャリア形成	3前･後			2		○								1	※演習
			キャリア形成ゼミ	2通			2			○							1	集中
			キャリア実習Ⅰ	1･2通			1				○						1	集中
			キャリア実習Ⅱ	1･2通			1				○						1	集中
			インターンシップⅠ	3･4通			1				○						1	集中
			インターンシップⅡ	3･4通			1				○						1	集中
			小計（8科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	3	－

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
共通教育科目	基盤科目	外国語	英語理解Ⅰ	1･2･3･4前	○		1			○							7	
			英語表現Ⅰ	1･2･3･4前	○		1			○		2					6	
			英語理解Ⅱ	1･2･3･4後	○		1			○							7	
			英語表現Ⅱ	1･2･3･4後	○		1			○		2					6	
			日常の英会話	1･2･3･4前･後			1			○							3	
			旅行の英会話	1･2･3･4前･後			1			○							2	
			留学の英会話	1･2･3･4前･後			1			○							1	
			おもてなしの英会話	1･2･3･4前･後			1			○							3	
			ビジネス英会話	1･2･3･4前･後			1			○							1	
			歌って覚える英語表現	1･2･3･4後			1			○							1	
			身近な英文法Ⅰ	1･2･3･4前			1			○							1	
			身近な英文法Ⅱ	1･2･3･4後			1			○							1	
			英語実践（４技能）Ⅰ	1･2･3･4前			1			○							3	集中
			英語実践（４技能）Ⅱ	1･2･3･4後			1			○							3	集中
			TOEIC Ⅰ	1･2･3･4前･後			2		○			1					2	
			TOEIC Ⅱ	1･2･3･4後			2		○			1					2	
			TOEIC Ⅲ	1･2･3･4前			2		○								1	
			TOEIC Ⅳ	1･2･3･4後			2		○								1	
			ドイツ語	1･2･3･4前			2			○							1	
			フランス語	1･2･3･4後			2			○		1						
			スペイン語	1･2･3･4前			2			○							1	
			アラビア語	1･2･3･4後			2			○		1						
			中国語Ⅰ	1･2･3･4前･後			2			○							3	
			中国語Ⅱ	1･2･3･4後			2			○							1	
			中国語Ⅲ	2･3･4前			2			○							1	
			コリア語Ⅰ	1･2･3･4前･後			2			○		1						
			コリア語Ⅱ	1･2･3･4後			2			○		1						
			コリア語Ⅲ	2･3･4前			2			○		1						
			海外研修（語学）Ⅰ	1･2･3･4休			2			○		1						集中
			海外研修（語学）Ⅱa	1･2･3休			2			○		1						集中
			海外研修（語学）Ⅱb	1･2･3･4休			2			○		1						集中
			日本語講読Ⅰ	1前			1			○							1	
			日本語講読Ⅱ	1後			1			○							1	
			日本語表現Ⅰ	1前			1			○							1	
			日本語表現Ⅱ	1後			1			○							1	
			日本語特講Ⅰ	2前			1			○							1	
			日本語特講Ⅱ	2後			1			○							1	
			小計（37科目）	－	－	0	54	0		－		4	0	0	0	0	23	－
		スポーツとウェルネス	女性と健康	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			人体の構造と機能及び疾病	2前			2		○								1	※演習
			体育講義	1後			1		○								1	
			体育実技	1前			1				○						2	
			健康スポーツ演習	1前･後			2			○							3	
			小計（5科目）	－	－	0	8	0		－		0	0	0	0	0	5	－
	合計（92科目）			－	－	2	151	0		－		4	0	1	0	0	58	－
女性キャリアデザイン連携科目	基盤科目		女性キャリアデザイン概論	1前	○	2			○			4						※演習　オムニバス
			基礎演習Ⅰ	1前	○	2				○		3						
			基礎演習Ⅱ	1後	○	2				○		3						
			女性とライフキャリア	1･2･3･4前			2		○								1	※演習
			子育てとワークライフバランス	1･2･3･4前	○		1		○			1						※演習
			ライフプランニング論	2後			2		○				1					
			ビジネスの基礎Ⅰ	2前	○		2		○				1					
			ビジネスの基礎Ⅱ	2後	○		2		○				1					
			ホスピタリティ入門	1･2･3･4前･後	○		2		○			1						※演習
			プレゼンテーション概論	2･3･4前	○		2		○			1						
			Women in Leadership	2･3･4前	○		2		○			1						
			小計（11科目）	－	－	6	15	0		－		4	1	0	0	0	1	－
	展開科目		現代社会と家庭経営	1後			2		○								1	
			消費生活	1前			2		○								1	
			生活経済学	2前			2		○				1					

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	家族社会学	3後			2		○								1	
		生涯学習概論	2･3･4前			2		○								1	
		マーケティング論	3前	○		2		○				1					
		ソーシャルマーケティング論	3後	○		2		○				1					
		女性起業論	3後			2		○								1	
		ＩＣＴビジネス論	2･3後			2		○								1	
		消費者行動の心理学	2･3前	○		2		○					1				
		産業・組織心理学	3後			2		○								1	
		ホスピタリティ研究	1後	○		2		○			1						
		ホスピタリティ＆キャリア	2･3･4前	○		2			○		1						
		旅行観光業研究	2･3･4休			2		○								1	集中・隔年
		ホテルビジネス研究	2･3･4休			2		○								1	集中・隔年
		エアライン・サービス論	1前			2		○			1						
		エアライン・ビジネス論	1後			2		○			1						
		現代ジャーナリズム入門	1･2後			2		○								1	
		現代出版事情	2･3･4後			2		○								1	
		メディアコンテンツ表現法	2･3･4後			2		○								1	
		京都資料論	2･3･4前			1		○								1	
		京都学	2･3･4後			2		○								1	
		図書館概論	1前			2		○								1	
		図書館サービス概論	2･3･4前			2		○								1	
		子どもの読書とメディア	2･3･4後			2		○			1						隔年
		コミュニティと福祉	3前	○		2		○			1						
		社会・集団・家族心理学	1後	○		2		○					1				
		国際関係論	1･2前			2		○								1	
		比較文化概論	1･2前			2		○								1	
		多文化理解	1･2後	○		2		○			1						隔年
		識字活動と子どもの権利	2･3･4後			2		○			1						隔年
		Popular Culture	2･3･4前			2		○								1	
		Global Issues	2･3･4後			2		○			1						
		ことばとコミュニケーション	2･3･4前			2		○								1	
		異文化間コミュニケーション	2･3･4前			2		○								1	
		対人コミュニケーション	2･3･4後			2		○								1	
		日本語の朗読	2･3･4前	○		2			○		1						
		接遇のための日本語	2･3･4前			1			○							1	
		小計（38科目）	－	－	0	74	0	－			6	1	1	0	0	19	－
	実践・統合科目	ライフプランニング実習	3後			2				○		1					
		ホスピタリティ・スキル演習	2･3･4前･後	○		2		○			1						
		ビジネスマナー演習	3･4後	○		1			○		1						
		エアライン研修	2･3休			1			○		1						
		京都フィールドワーク研究	2･3･4後			2		○								1	
		コミュニティ活動実践	3通	○		2			○		1						集中
		海外キャリア実習	2･3･4休			2				○						1	集中
		海外文化研修	1･2･3･4休			1			○		1						集中
		海外ボランティア実践	1･2･3･4休			1			○		1						集中
		プレゼンテーション演習	2･3･4後	○		2			○		1						
		Study Abroad Preparation	2前	○		1			○		1						集中
		Global Career Skills Development	2･3･4後	○		2			○		1						
		Intercultural Communication and Acculturation	2･3･4前			2		○								1	
		Argumentation and Debate	2･3･4前			2			○							1	
		Public Speaking	2･3･4前			2			○							1	
		Persuasive Communication	2･3･4後			2			○							1	
		ワークショップ（Will）	1･2･3･4通	○		2				○	2						集中
		ワークショップ（Can）	1･2･3･4通	○		2				○	1	1					集中
		ワークショップ（Must）	1･2･3･4通	○		2				○	2						集中
		ワークショップ（Ref）	2･3･4通	○		2				○	1	1					集中
		フィールドワークⅠ（Will）	1通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅠ（Can）	1通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅠ（Must）	1通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅠ（Ref）	1通	○		2				○	1		1				集中
		フィールドワークⅡ（Will）	2･3･4通	○		2				○	1		1				集中

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	フィールドワークⅡ（Can）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅡ（Must）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅡ（Ref）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅢ（Will）	2･3･4通	○		2				○	1	1					集中
		フィールドワークⅢ（Can）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅢ（Must）	2･3･4通	○		2				○	1		1				集中
		フィールドワークⅢ（Ref）	2･3･4通	○		2				○	1	1					集中
		フィールドワークⅣ（Will）	2･3･4通	○		2				○	1		1				集中
		フィールドワークⅣ（Can）	2･3･4通	○		2				○	1		1				集中
		フィールドワークⅣ（Must）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		フィールドワークⅣ（Ref）	2･3･4通	○		2				○	2						集中
		小計（36科目）	－	－	0	67	0	－			9	2	2	0	0	4	－
	専門演習・卒業研究	発展演習Ⅰ	2前	○	2				○		3						
		発展演習Ⅱ	2後	○	2				○		3						
		専門演習	3通	○	4				○		8	1	2				
		卒業研究	4通	○	8				○		8	1	2				
		小計（4科目）	－	－	16	0	0	－			8	1	2	0	0	0	－
	合計（89科目）		－	－	22	156	0	－			9	2	2	0	0	22	－
合計（181科目）			－	－	24	307	0	－			9	2	2	0	0	76	－

学位又は称号	学士（キャリアデザイン）	学位又は学科の分野	文学関係、家政関係、社会学・社会福祉学関係、教育学・保育学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
(1) 共通教育科目 必修科目２単位、教養科目の人間と文化、人間と社会、人間と自然の３領域から各２単位以上、人間と情報の情報演習Ⅰａ若しくは情報演習Ⅰｂ又は情報演習Ⅱから１単位以上、基盤科目のカトリック教育の選択科目から４単位以上、自己の形成から２単位以上、外国語から８単位以上（英語に関する科目４単位以上を含む。）、全体から選択３単位以上、合計２６単位以上修得する。ただし、外国人留学生にあっては、日本語の科目４単位の修得をもって英語に関する科目４単位に充てることができる。 (2) 女性キャリアデザイン連携科目 必修科目として基盤科目６単位、専門演習・卒業研究１６単位の計２２単位を修得し、選択必修科目として基盤科目から１０単位以上、展開科目から１０単位以上、実践・統合科目の「ワークショップ」及び「フィールドワーク」科目群から計８単位以上、実践・統合科目（「ワークショップ」及び「フィールドワーク」科目群を除く。）から４単位以上、全体から１４単位以上、合計６８単位以上を修得する。 (3) (2)の実践・統合科目の「ワークショップ」及び「フィールドワーク」科目群計８単位の修得方法は、女性キャリアデザイン学環において真にやむを得ない事情があると認めた場合を除き、以下の全てを満たすこととする。 ①「ワークショップ(Will)」、「ワークショップ(Can)」又は「ワークショップ(Must)」のうち１科目及び「フィールドワークⅠ(Will)」の計２科目４単位を修得する。 ②「ワークショップ」並びに「フィールドワークⅡ」、「フィールドワークⅢ」及び「フィールドワークⅣ」のいずれかの科目から２科目４単位を修得する。 ③ ①及び②の４科目８単位には、(Will)、(Can)、(Must)及び(Ref)の全てを含めるように修得する。 ④ 各(Ref)は、(Will)、(Can)及び(Must)から各２単位以上、計６単位以上を修得した者に限り履修できるものとする。 (4) 学際教育科目 他学科等科目から３０単位まで履修できる。なお、他学科等科目の科目構成については、年度ごとに別途定める。 (5) (1)～(4)全体で１２４単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：４６単位（年間））	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（女性キャリアデザイン学環）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	人間と文化	日本文学		日本文学の表現と文化背景に対する理解を深めることを目標とする。はじめに文学というジャンルの特徴について考察する。特に言語表現としての特徴を理解するために、絵画や音楽など、他ジャンルの表現と比較していく。続いて、国際的交流の中で形成されてきた日本文化の特徴をふまえながら、具体的な作品の分析をとおして、日本文学の特質に対する理解を深める。これら２つの視点を前提としながら、日本文学に対する概説的な知識を身につけると共に、文学理念や文学表現理論のテキストと結びつけ、言語表現としての文学を意識的に読解できるような分析力を育てる。	講義15時間 演習15時間
			外国文学		アラブ文学とはアラビア語で表現された文学をさす。その起源はイスラームが興る以前の西暦６世紀に遡る。それ以来、アラブ文学は現代に至るまで豊かで固有の文学伝統を築いてきた。本科目では代表的ジャンル（聖典、詩、物語など）の各作品（和訳）を注意深く読むことによって、その文学伝統を理解し、内容の考察及び解釈の仕方を学ぶ。具体的には、アラブ文学に大きな影響を与えてきたイスラームの聖典「コーラン」、もっとも長い歴史をもつアラブ古典詩、そして今や世界文学となった「アラビアンナイト」を扱う。	講義15時間 演習15時間
			日本近現代史		日本史のなかでも特に近代史・現代史の分野について、「その出来事が歴史の流れのなかにどう位置づけられるか」ということに重点を置いて講義する。歴史学では「なぜ、そうなったのか」と考えることが重要であり、歴史は過去のものではなく、現在にも影響を及ぼしていることの理解が必要である。特に、経済・文化に注目し、江戸時代の経済、幕末の政治状況と開国から明治維新、日本が西洋と出会い近代国家として歩んでいく中での大正デモクラシーとモダン文化、戦争と経済、占領下の日本とその後の高度経済成長へと続く流れ、及び現代日本の経済について考察する。	講義15時間 演習15時間
			東アジア近現代史		現在，世界の成長センターとされている東アジア地域の多くが欧米列強や日本の植民地支配もしくは，その強い影響下にあった。脱植民地化や近代化の過程において，この地域は大きな政治的・社会的な変動を経験した。今日の東アジア地域の社会と国家を考えるには，この地域が当時，どのような状況におかれていたか，そして，その中でどのように国民国家形成を成し遂げようとしたかを理解することが不可欠である。本講義は，そうした歴史学的な視座を受講生に学習してもらうことを目的とする。	講義15時間 演習15時間
			ヨーロッパ近現代史		第二次世界大戦以降，東西に分断されてきたヨーロッパは，冷戦後はアメリカの一極集中に対抗するかたちで多様性のなかの統合を強めつつある。前半では，EUの歴史や課題，「旧東欧」諸国の近年の変化など概観し，グローバル化した現在のヨーロッパを理解する。後半では，民族，文化，宗教，政治経済，芸術などさまざまな分野から，現代ヨーロッパの複数国の過去20年の歴史を，グループごとの資料収集と報告も交えながら議論する。同時に，それらと日本のかかわりを考察ことも視野に入れた講義を行う。	講義15時間 演習15時間
			文化人類学		「文化」は人と人とが結びつくところに生まれるが、文化には様々な違いがあり、異なる文化同士が対立することもある。グローバル化が進み、異文化間の交流が盛んになる現在、そうした対立が様々な形で現れ、それらを解消することがますます重要になっている。本講義では、一見近寄りがたく感じるような「異文化」や当たり前になっている「自文化」を見つめ直すことにより、「異文化」と「自文化」との関わりや「伝統文化」と「近代文明」との関係、自己と社会との関わりについて理解を深め、文化的な対立の解消を図る道筋を探る。	講義15時間 演習15時間
			哲学入門		自分が当たり前だと思い込んできたことや世の中で常識とされていることをあらためて問い直し、深く考えること。これが「哲学する(philosophize)」ということである。この意味で、大学では、どんな学問を専攻するにせよ、「哲学する態度」が求められていると言えるだろう。この授業は、哲学の思想や概念を講義することに終始せず、大人とはどういう人のことか、社会とは何か、学ぶとはどういうことか、愛するとはどういうことか、等々、誰にとっても身近で根本的なことがらを問い直し、深く考えることをとおして、「哲学する態度」を身に付けることを目的とする。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	人間と文化	日本の歴史と文化		主に京都を取り上げ、１つの土地に刻まれた重層的な歴史について学ぶ。ものごとの変化を捉えるだけではなく変化の理由や背景についても考えながら、「観光」が生まれる以前人々がどのような目的で国内を移動したのかについて、また都の空間構造とその変化について理解する。授業をとおして、日本史の基礎的な知識を身に着けること、そして各時代に生きた人々の生活や文化について理解することを目指す。	講義15時間 演習15時間
		人間と社会	暮らしの法律学		日常生活で起こりがちなトラブル（注文した商品が届かない、賃貸物件の敷金を返してもらえない、交通事故に遭ってケガをした等）を素材とし、法律学の基礎、とりわけ、民法や民事特別法（借地借家法、消費者契約法など）の基本的な問題を扱う。授業時における講師と受講者あるいは受講者どうしのやりとりを通して、知識の習得とともに、「法律の条文や判例を手がかりにしながら、他人を説得できるような結論を導き出す」という法的思考を身につけることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
			憲法と人権		その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書であり、国の基本法である「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶ。①憲法とは何か、②権力分立の意義、③人権保障の意義、④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考える）、⑤国際社会における日本国憲法（特に人権の視点から） テキストから具体例を取り上げ、それに関連する憲法の条文の意味や内容などを考える。	講義15時間 演習15時間
			暮らしの経済学		近年、経済のグローバル化やさまざまな分野における規制緩和によって社会や経済の構造が大きく変革し、市場メカニズムの役割はますます重要になっている。本講義の目標は、市場経済のしくみとその特徴について学ぶと同時に、その限界についても理解することである。いま日本社会が直面している問題は、雇用問題、格差問題、財政赤字、少子高齢化、年金問題などさまざまあるが、この講義で習得した理論的な知識をもとに、多様な社会・経済問題について議論できる力を養ってもらいたい。	講義15時間 演習15時間
			国際関係論入門		急速なグローバル化の進行する21世紀の国際社会において、何が起きているか、そこで、生じる様々な課題に、私たちはどのように対処したらよいかを学生に考えさせる。経済面でのグローバル化の進展に伴い、宗教、地域主義、民族主義など根ざす、「アイデンティティの政治」が近年活発である。格差の拡大や「人間の安全保障」の課題に、国家や国際機関だけでなく、広く「市民社会」が、どのように対処すべきかについて具体的に考える。	講義15時間 演習15時間
			社会学概論		本講義は社会学の基礎知識を習得することを主な目的とし、さまざまな社会問題や現象を取り上げ、一つひとつ検討しながら社会のメカニズムを明らかにしていく。「社会」とは個々の家庭・家族から日常的な社会生活の場、さらには国際社会に至るまでを指しており、そこに生じている社会現象や諸問題を学ぶことによって、物事に対する多角的な視点を獲得し、日常生活の中に隠された「ひと・自己」と「社会」の関係性に気づくことを目指す。最終的に、それぞれが「社会」に対する考え方や見方を養い、積極的に「社会」に対して関わっていけるような姿勢や態度、行動力を育成する。	講義15時間 演習15時間
			ジェンダー論		人間は、人であると同時に、生まれながらにして、女か男である。そして、「女」「男」という身体的な相違、性別の相違＝性差が、多くの社会において、時として、「人」の普遍的な自由と平等の保障を阻んできた。性差を根拠として差別が存在するのはなぜか。女であり、男であるということと、女らしい、男らしいということとは別である。女らしさ・男らしさというのは、性差に基づく認識であり、社会的、文化的に形成されてきた。ある取り扱いについて、男女を区別して異なる取り扱いをしている場合、そこに「合理的説明」が必要である。本講義では、身体・性・生と個人の尊重の問題を扱う。	講義15時間 演習15時間
		人間と自然	身近な自然科学		身近に見られる科学的現象から基礎的な科学理論を、もしくは、基礎的な科学理論から身近な科学的現象の理解を深めることを目的とする。本講義を通して、日常世界を科学の目でも見ることができるようになることを目指したい。このような姿は、現在重視されている「科学的リテラシー」を身につけることへとつながるものである。授業では講義とともに、観察・実験活動やものづくり活動を行う予定である。受講生の積極的な参加が求められる。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	人間と自然	暮らしの統計学		統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても必要とされている。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。具体的には、 統計データの種類や集計法、グラフの種類と特徴、統計データの代表的な指標、平均値の比較と連続変数の関連性を理解したうえで。問題解決のために必要な統計のデータに対して適切な手法で分析を実施し、それによって得られた結果を文章にまとめて、伝えることができるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
			生命倫理		「臓器移植」「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。具体的な個別課題は、現代社会における善悪の理解、先端医療技術についての知識の習得、経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、「私の生命」へのまなざし、などである。	講義15時間 演習15時間
			暮らしと電気・エネルギー		豊かな人生を送るための基盤となる家庭生活を便利で快適にかつ安全なものにするために、家庭で使われる家電製品やガス器具・機械・情報機器に対してその仕組みを理解し、電気・機械・情報処理などに関する基礎知識を身に着けることで、それらを安全で適切に使いこなす能力を養うことを目標とする。さらに、これら機器の利用にかかわる環境負荷についても学び、循環型社会、持続可能な社会など地球環境に対する意識を高める。また、身につけておくべき情報技術を習得する。	講義15時間 演習15時間
			日常の中の数学		本科目においては、中学卒業程度の数学の知識・技能を基に、数学的活動を通して、数理の楽しさを知り、社会生活の中で見通しを持ち、筋道を立て、考えていく力を育成することを目的として、数学教材の問題解決を図っていく。数と式、図形、計量、変化と対応、データの活用の領域から毎回問題を解決することを行っていく。授業の終わりに課題を出し、次の授業に解説をしていくスタイルで、無理なく問題解決を図れるようにしていく。	講義15時間 演習15時間
			自然災害からの防災・減災		自然は日常的には私たちに多くの恵みを与えてくれる。しかし、時にそれが災害に繋がることもある。このような、自然災害への理解は、国際的な視点からは「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」とも大きく関わり、自然とどのように向き合っていくのかを理解し、行動できる人材が求められている。本科目では、自然災害を減らすために必要な知識について学ぶと共に、自然の神秘性や自然の恵みを享受していること等にも理解を深め、それらの知識を基に行動選択・意思決定できる力の育成を目指す。	講義15時間 演習15時間
		人間と情報	情報演習Ⅰａ	○	大学での課題解決、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、研究活動に必要不可欠なPC技能を身につける科目である。具体的には、コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要となるOfficeツール(日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト）の基本的な概念や操作、「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングなどを対面授業での実習を通して習得する。	演習15時間 講義15時間
			情報演習Ⅰｂ	○	大学での課題解決、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、研究活動に必要不可欠なPC技能を身につける科目である。高校までに習得したことの確認も含めて、コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要となるOfficeツール（日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト）の基本的な概念や操作、「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングなどを習得する。	演習15時間 講義15時間
			情報演習Ⅱ		大学や企業・組織で日常的に使われているOfficeツール（日本語文書作成ソフト、表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフト）に関しての応用スキルを習得し、社会で必要とされるIT応用力を養うことを目的とした科目である。特に表計算ソフトの利用に関しては、各種関数の活用、複数のシートの操作、ユーザー定義の表示形式、高度なグラフの作成、ピボットテーブルの作成、データベースの活用までを学び、データサイエンスの入り口としての統計の基礎力も身につける。	演習15時間 講義15時間

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	人間と情報		情報処理		インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）をコミュニケーション手段ととらえ、活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につける科目である。電子メールやWWWを中心とした各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割、電子メールの配送のしくみの理解、情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解など、ネットワークリテラシーを高めるための知識も身につける。Webページの制作実習では、HTMLとCSSを用いてページを記述し、情報発信力を高める。さらに、AIの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。	演習20時間 講義10時間
				情報の科学と倫理		現代において人々はスマートフォンを肌身離さず持ち歩くようになっているが、便利な電子機器が当たり前のように身の回りに溢れているがゆえに、それらがどのように動いているかなどを気にすることは、少なくなってきている。　本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や人権問題にも目を向け、基礎的な情報倫理の知識も得ることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
				ＳＮＳコミュニケーションスキル		本科目では、SNS(Social Networking Service) の特性を知り、ネット上でのコミュニケーションの方法を考え、ネット上のトラブル回避や相談機関の活用の仕方を身につけ、どのような機器を扱う場合であっても必要となる、コミュニケーションに関わる事柄を考えることを実践的に学んでいく。そのためにインターネットやSNSの仕組みや内容を概観し、社会におけるルールや法律などを踏まえてその特性を理解し、望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。また、望ましいコミュニケーションを行うための認定資格にも授業内でチャレンジしていく。	講義15時間 演習15時間
				ＡＩとデータサイエンス入門		本科目では、近年、進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されつつあるAIと、AI技術に密接に関連するデータサイエンスの基礎について学習する。AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉を扱う技術、自然言語処理について学ぶ。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング演習も行う。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とする。	講義15時間 演習15時間
				ＡＩとデータサイエンス		本科目では、「AIとデータサイエンス入門」を発展させ、ビジネスにも広く活用されつつあるAIと、AI技術に密接に関連するデータサイエンスについてさらに深く学習する。AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉を扱う技術、自然言語処理について詳しく学ぶ。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学ぶ。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング演習も行う。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とする。	講義15時間 演習15時間
				アルゴリズム基礎		コンピュータに実行させる処理手順を表現するアルゴリズムの記述に関して、基礎となる概念を学ぶ科目である。アルゴリズムとは何であるかを概観したのち、データ検索やデータの並べ替えのアルゴリズムのような基礎的なものから、日本語と英語の自動翻訳のアルゴリズムのような応用分野まで、幅広い分野のアルゴリズムを具体的に学ぶ。たとえば、データ検索のアルゴリズムの中にも、線形探索法、二分探索法、ハッシュ法などさまざまなものが存在し、それぞれの計算量が異なることなども学び、プログラミング技術を高める基礎知識とする。	講義15時間 演習15時間
				情報技術リテラシー		国家の社会基盤となりつつある情報技術に対して、一定の知識・技能を身につける科目である。国家試験である「情報技術者試験：ITパスポート」の技術水準をガイドラインとし、IT（Information Technology）を活用する人材として備えておくべき知識と技術の獲得を目標とする。コンピュータのしくみ、ソフトウェアとハードウェア、情報基礎理論、データベース技術、インターフェイスとマルチメディア、ネットワークシステム、情報セキュリティなどの技術・知識を演習によって問題を解決しながら習得できるようにしていく。	講義15時間 演習15時間
				プログラミング演習		プログラミング言語 JavaScriptを利用して、プログラミングやアルゴリズムの基本を学ぶ科目である。基本制御構造として、順次、条件分岐、繰り返し処理を含むプログラムを書くことで、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。オブジェクト指向プログラミング、フォーム部品との連携、アルゴリズム、動的なWebコンテンツなどを扱う。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していくことを目標に、論理的・創造的な思考やプログラム作成の技術を養う。	演習15時間 講義15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	教育の基礎	教育原理		教育の理念や教育に関する歴史、思想を理解するとともに、21世紀の変動する社会において教育に携わる者に必要となる物事の見方や課題意識を養う。教育の基盤にある哲学や思想、日本と欧米の社会教育、学校教育の歴史、また教育の現代的課題について学ぶ。を自分の経験を振り返りそれらに結びつけて教育の原理や歴史を理解するとともに、現代の教育の課題について深く思考することで、自分自身の学校観、授業観、教師観を編み直すことを目指す。	講義15時間 演習15時間
			教育史		本科目は、教育を支える理念、教育の歴史および思想について学ぶことを目的としており、特に歴史的事項を重点的に扱う。「歴史は現代への問いである」という言葉が示すように、教育史を学ぶ第一の意義は歴史を通じて現代の教育をより深く認識することにある。本授業では、西洋と日本における教育の歴史的変遷およびその背景に関する基礎的知識を身につけ、歴史的な視座から教育の基本概念について理解できるようにする。また、古来より家族や社会において営まれてきた教育と学校教育との歴史的関係性について学ぶことを通じ、教育という営みに対する視野を広げることを目指す。	講義15時間 演習15時間
			教育社会学		高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し社会の平等化を推進したが、その反面、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生み出してしまった。それを解決するための施策が、ここ数年にわたって、教育改革として次々に展開されている。本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「学歴社会」「学力問題」「いじめ」「教育改革」「教育階層と教育」「若年就労者と教育」などである。	講義15時間 演習15時間
			教育心理学		教育活動における心理学的理解は重要である。教授方法や学習理論、あるいは、教育の対象である児童・生徒の理解がなければ、適切で効果的な教育活動は行えない。この科目では、学習心理学、発達心理学、社会心理学の基礎的な知見の紹介にとどまらず、教育に活かす方法について講義する。そして、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、生涯発達の観点から発達の過程や初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察することで子どもへの理解を深める。心理学的知識を踏まえ発達を捉える視点を持つことにより、適切で効果的な教育活動について理解することを目標とする。	講義15時間 演習15時間
	基盤科目	カトリック教育	キリスト教学	○	本学の教育理念にとって、カトリック（キリスト教）の精神は大切な柱の一つである。この科目ではまず、聖書がどのような書物であるか、世界の存在や人間をどのように見ているかを学び、説明できるようにする。次に、新約聖書の福音書の中に描かれているイエスについて、イエスとは誰か、神の国の福音とは、イエスの教えとわざなどについて学んでいく。特にイエスの教えた愛がどのようなものであるか学ぶことにより、人間のあり方へのチャレンジである福音の価値観を理解し、福音の現代社会へのメッセージを理解し、表現することができることを目標とする。	講義7.5時間 演習7.5時間
			キリスト音楽概論	○	詩編98には「新しい歌を主に向かって歌え。琴に合わせ、楽の音に合わせて。」とあり、「よく歌う人は倍祈ることになる」とも言われ、音楽を通してキリスト教精神を理解することを目標とする。時代や国によって異なるキリスト教音楽の世界を紹介し、さまざまな音楽を聴くことを通して、古今の音楽家がいかに神と向き合い、作品として表現したのかを考える。頭だけの理解にとどまらず、自分自身の感覚で音楽を感じとるため、聖歌を歌う練習も授業内で行い、キリスト教文化に親しむとともに、キリスト教音楽を学びながら、西洋の芸術や文化についても理解する。	講義7.5時間 演習7.5時間
			聖書とキリスト教	○	新約聖書の福音書に描かれるイエスの言葉と行為、また、ユダヤ人の文化を通して、イエスを一世紀のパレスチナで生きた一人の人間として眺め、当時の文化的社会的背景を考慮しつつ、キリスト教成立以前のありのままの人間としてのイエスを探究する。当時の人々にとってイエスが信仰の対象となるに至る過程を、ユダヤ社会の連帯、ユダヤ人の殉教の伝統、当時の政治状況やイエスの裁判などから、当時の文化との関係において理解し論じることを目標とする。授業方法は講義を中心とするが、聖書を読み、参考文献を調べて積極的に授業に参加すること。	講義15時間 演習15時間
			キリスト教と日本文化		日本のキリスト教を、文学・文化・歴史の観点から捉え、とりわけカトリック作家遠藤周作の作品を中心に、テキストを批評する力を身につけることを目標とする。キリスト教を題材とした日本近現代文学から、作品の背景にあるキリスト教の歴史や諸問題を学ぶとともに、作家個人の信仰の葛藤など内面の問題を想像力を持って理解する。さらに、日本のキリスト教の歴史や文化の問題について、日本における西欧文学の受容、近代日本文化とキリスト教の関係、キリシタンなど、日本のキリスト教の歴史や文化について、現代の問題に関連させ批判的な視点からも考察する。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	カトリック教育	キリスト教思想		混迷した現代社会にあって、自分自身や他者をどのように理解し生きていけばよいのか、キリスト教思想を通して考える。授業では、トマス・アクィナス、渡辺和子、本田哲郎、チェスタトン、ハリール・ジブラーン、神谷美恵子らによるキリスト教思想の著作や教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』などを紹介しながら、現代社会の問題を考察するとともに、キリスト教思想に触れることで自分を見つめ直し、家族・友人・学校・地域社会などのコミュニティーの中で支え合うことの重要性を自覚し、自分と他者の独自性を尊重しつつ互いを受容できる良識を身につけること目指す。	講義15時間 演習15時間
			キリスト教美術		4世紀以降、長い時間をかけて成立したキリスト教美術には、繰り返し描かれ続けてきた主題と表現上の約束事がある。本科目では、講義形式でその基本的な知識を習得する。主にゴシック時代から１８世紀について、絵画を中心とした代表的な作例を鑑賞し分析することにより、主要な主題と基本的な図像を学べるようにする。旧約聖書・新約聖書・聖人についてまんべんなく触れる。また、キリスト教美術の歴史についても適宜解説し、基本的な流れを把握してもらう。以上を通して、未知の作品に出会ったときにも、独力である程度主題を推測できる力を養うことを目指す。	講義15時間 演習15時間
			キリスト教音楽	○	本授業では、古くから多くの作曲家によって手がけられ現代にまで続いているミサ曲を、中世からバロック時代にかけての変遷やJ.S.バッハ作曲の≪ロ短調ミサ曲≫、更にモーツァルト、ベートーベンなどの古典派のミサ曲までを範囲に学ぶ。オラトリオのテキストの日本語訳と音楽との関連性を理解するとともに、ヘンデルの音楽の特徴や他の作曲家（特にJ.S.バッハ）の音楽との比較を考察し、ミサ曲と典礼との関わりやバッハの音楽の宗派を超えた普遍性などについても論じ、自己の音楽的視野を広げ、ミサ曲に対する学びを通してキリスト教に親しむことを目的とする。	講義15時間 演習15時間
		自己の形成	ボランティア概論		キリスト教に影響された西欧倫理を土台にもつボランティアの性格は、日本において変化がみられ、ボランティア理解はあいまいである。ボランティアは、自由や正義のために、またよりよい社会のために、自ら進んでする活動であり、共に生きる社会の実現をめざし、相手の立場に立ってものを考え行動する心のはたらきが不可欠である。ここではまず基礎から、ボランティアの根本精神の理解と、多種のボランティア活動への認識に入ろうとするものである。	講義15時間 演習15時間
			アカデミック・ライティング		大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけるため、授業時間外にも課題に取り組む機会を多く設ける。	講義15時間 演習15時間
			キャリア形成		大学生活の中盤を迎える2、3年次生を対象に、コミュニケーションスキルを向上させながら、大学生活の振り返りを行い、今後のキャリアプランについて考える科目である。そのために、基礎的なコミュニケーションスキルについての学修をした上で、自己の振り返りや職業社会の理解など、キャリアにかかわる学修を少人数のグループワークを中心に行い、コミュニケーションスキルを高めながら、キャリアに関する深い理解と、今後のキャリアプランの作成をする。	講義15時間 演習15時間
			キャリア形成ゼミ		社会で必要とされる力を社会人基礎力と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動する「場」をゼミナールとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。	
			キャリア実習Ⅰ		事前研修は、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施し、インターンシップの概要と心構えを学び、実習先の研究およびその成果についての発表と目標の立案を行う。その後、就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考え、その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修での就業体験で学び得た事の整理を行い、今後の行動計画の立案・発表を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになることを目的とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	自己の形成	キャリア実習Ⅱ		事前研修は、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施し、インターンシップの概要と心構えを学び、実習先の研究およびその成果についての発表と目標の立案を行う。その後、就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考え、その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修での就業体験で学び得た事の整理を行い、今後の行動計画の立案・発表を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになることを目的とする。	
			インターンシップⅠ		職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性（思いやり、公共心、倫理観）を高め、基本的な生活習慣（基礎的なマナー、時間管理）を身に付けることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	
			インターンシップⅡ		職業現場での就業体験プログラムを通して、働くことの価値形成を図る実践授業である。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識を育成し、職業選択の明確な基準軸を養成するとともに、人間性（思いやり、公共心、倫理観）を高め、基本的な生活習慣（基礎的なマナー、時間管理）を身に付けることを目標とする。就業体験を有意義にするための事前、事後指導も併せて行う。さらに体験成果の発表を課すことで、社会人としての基礎能力をも養成する。	
		外国語	英語理解Ⅰ	○	本科目では、リーディングに重点を置き、仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、簡単な英語の文章を効率よく読む練習からスタートする。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行う。最終的には、「英語理解Ⅱ」での学習も併せ1年間で、抽象的な話題や自分の専門分野についても、高度な内容の英語の長文を理解し、複雑な文章の含意を把握できるようになることを目指す。	
			英語表現Ⅰ	○	本科目では、基本的な英語ライティングの技術を習得することを目的としている。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、伝えたいと思う内容を表現することが英語で出来る能力を身に付けるため、「書く」練習を積み重ねる。「英語表現Ⅱ」と併せ1年間の積み重ねで、最終的には、自分の専門分野の技術的な議論も含めて、複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作り、参考文献を引用しながら、それらを組みあわせ、まとまったエッセイを書くことができるようになることを目指す。	
			英語理解Ⅱ	○	本科目では、「英語理解Ⅰ」での学びに引き続き、リーディング能力の向上を目的としている。仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、簡単な英語の文章を効率よく読む練習からスタートする。平易な英語のテキストを多く読むことによって、できるだけ様々な主題や表現を経験するとともに、この読む練習を通じて、基礎的な文法の復習、語彙ビルディングも行う。最終的には、抽象的な話題や自分の専門分野についても、高度な内容の英語の長文を理解し、複雑な文章の含意を把握できるようになることを目指す。	
			英語表現Ⅱ	○	本科目では、「英語表現Ⅰ」での学びに引き続き、英語ライティングの技術向上を目的としている。基礎的な文法、スペリング、句読法、などを復習し、パラグラフの規則を覚えることにより、伝えたいと思う内容を表現することが英語で出来る能力を身に付けるため、「書く」練習を積み重ねる。最終的には、学生自身の専門分野の技術的な議論も含めて、複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作り、参考文献を引用しながら、それらを組みあわせ、まとまったエッセイを書くことができるようになることを目指す。	
			日常の英会話		授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、日常的な内容に関するリスニング力を鍛える。同時に、ペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられた身近なトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	外国語		旅行の英会話		授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、海外旅行に必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
				留学の英会話		授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、留学やホームステイに必要な内容に関するリスニング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
				おもてなしの英会話		授業中、学生は旅行代理店、ホテル、レストランなど観光産業で行われる会話や路上で旅行者を助けるための会話に必要なリスニング力および会話力を、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまでペアおよびグループワークを通して英語のみで鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
				ビジネス英会話		授業中、学生は教師、音声、学習者同士の活動を通して、ビジネスに必要な内容に関するリスニング力およびスピーキング力を鍛える。同時にペアおよびグループワークを通して、英語のみでコミュニケーションをはかりながら、平易な文構造を使って、与えられたトピックに関し、自信をもって自分の意見を述べられるようになるまで会話力を鍛錬する。授業外では授業内活動が活性化するよう、トピックに関するリスニング、リーディング、ライティングの予習が課せられる。	
				歌って覚える英語表現		英語がうまくなりたいと思いながら、手段がわからないという学習者に対して、英語を身近に感じながら、自然に英語表現の習得を目指す実践的授業である。歌を唄うという演習を通して、英語独特のリズムやイントネーションが無理なく矯正されることに加え、歌詞の聞き取りにより、音声独特の連結などを積極的に聞き取ろうとする態度を涵養する。さらに、歌詞理解を図ることによって、異文化理解を促進することが可能となる。また、歌詞を覚えることで、より多くの日常的な英語表現を習得することを目指す。	
				身近な英文法Ⅰ		英語学習につまずいた経験や苦手意識のある学生、基本的な理解ができているが学び直しをしたい学生を対象に、外国語としての英語の理解に必要な英文法を基礎から学びなおし、習得することを目的とした授業である。具体的には、基本の5文型をはじめ、構文、不定詞、時制、仮定法などの基礎的な英文法の習得、文法構造の理解、素早い正確な英文読解のための英文法を学ぶ。また、学んだ英文法・語法の知識を生かした表現とスムーズな読解の能力を身につける。	
				身近な英文法Ⅱ		本科目では、「身近な英文法Ⅰ」の学びに引き続き、英語学習につまずいた経験や苦手意識のある学生、基本的な理解ができているが学び直しをしたい学生を対象に、外国語としての英語の理解に必要な英文法を基礎から学びなおし、習得することを目的とした授業である。具体的には、基本の5文型をはじめ、構文、不定詞、時制、仮定法などの基礎的な英文法の習得、文法構造の理解、素早い正確な英文読解のための英文法を学ぶ。また、学んだ英文法・語法の知識を生かした表現とスムーズな読解の能力を身につける。	
				英語実践（４技能）Ⅰ		１回45 分×26 回の実践的な授業を通して、Listening、Reading、Writing、Speaking の４技能を高め、英語コミュニケーションの向上を図る。会話、インタビュー、ゲーム、アクティビティを通して、教員やクラスメートが話す生の英語に触れ、英語を使う努力を定期的、継続的に行うことで、英語は道具であることを認識し、英語に対して積極的な態度で臨むことができるようになること、ボキャブラリーを増やしつつ、正しい文法が必要であることをより深く理解し、英語を使った効果的な表現ができるようになることを目指す。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	外国語		英語実践（４技能）Ⅱ		英語実践（4技能）Ⅰに続き、１回45 分×26 回の実践的な授業を通して、Listening、Reading、Writing、Speaking の４技能を高め、英語コミュニケーションの向上を図る。会話、インタビュー、ゲーム、アクティビティを通して、教員やクラスメートが話す生の英語に触れ、英語を使う努力を定期的、継続的に行うことで、英語は道具であることを認識し、英語に対して積極的な態度で臨むことができるようになること、ボキャブラリーを増やしつつ、正しい文法が必要であることをより深く理解し、英語を使った効果的な表現ができるようになることを目指す。	
				TOEIC Ⅰ		TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストである。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されている。文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とする。本科目では基礎的な600単語をターゲットとして語彙力を身につける。	
				TOEIC Ⅱ		TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストである。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されている。文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とする。本科目では応用的な600単語をターゲットとして語彙力を身につける。	
				TOEIC Ⅲ		TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストである。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されている。文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とする。本科目では公式問題集10を使用し本番のテスト形式を意識した能力を養う。	
				TOEIC Ⅳ		TOEIC(R)テストは、世界約60ヶ国で毎年450万人以上が受験している、英語コミュニケーション能力を評価するための世界共通テストである。多くの企業、官公庁、大学などで英語によるコミュニケーション能力を総合的に評価できるテストとして採用されている。文法知識、語彙力、リスニングやリーディングの能力を向上させ、TOEIC(R)解答のストラテジーを習得して、高得点を獲得することを目標とする。本科目では公式問題集9を使用し本番のテスト形式を意識した能力を養う。	
				ドイツ語		読み物・作文、やさしい会話、ビデオ教材の使用などを通じてドイツ語を話す人々の文化や思考法を学ぶ。また、初級文法の知識を身につけつつ、ドイツ語の文章を正確に読めるようになることを目標とする。具体的には、教科書の内容に沿った文法課題、教科書・配布物による文章読解、作文、視聴覚教材によるドイツ文化の学習、ペア・グループワークによるドイツ語会話やディスカッション、またその練習成果としての口頭発表に取り組む。ドイツ語圏の文化や諸事情に触れ、異文化への関心と理解も深めていく。	
				フランス語		基礎的なフランス語能力（「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」）の修得を目指す。基礎的なフランス語の発音・聴き取り・文法･語彙の規則を学ぶ。基礎的なフランス語の表現・成句・文法を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の修得を目指す。また、フランス語特有の文構造に慣れ親しみ、文全体を理解する。文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シュミレーション」など、コミュニケーションのための言語使用や文法能力を身につける。この科目はSteven Herderが統括し、指導補助者が一部を担当する。	
				スペイン語		本科目では、基礎的な文法事項を学ぶと同時に、様々な生活場面を題材とした会話表現を練習することにより、スペイン語の基本的な運用能力、コミュニケーション能力を身につけることを目指すとともに、それをとおしてスペインやスペイン語圏の文化に親しむ。具体的には、自分が欲しい情報を得る、あるいは相手との情報交換をするといった初歩段階から実践段階の練習をする。同時にスペイン語の学習を通して、ヨーロッパだけではなく、中南米を含むラテン文化にも触れていく。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	外国語		アラビア語		「アラビア語」は中東・北アフリカを中心とする国々で用いられ、世界の言語の中でも大変広い地域で話されている。また国連の公用語の1つにも数えられている主要言語のひとつである。本科目の目標はアラビア語の読み・書き・聞く・話す基本を習得し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことである。またアラビア語の背景にあるアラブ・イスラーム文化の理解もめざす。内容としては、28文字からなるアラビア語のアルファベットの書き方と発音を学び、基礎的な語彙、挨拶や日常会話表現を学習する。	
				中国語Ⅰ		本授業は演習形式の中国語初級授業である。半年30コマの学習を通して、受講生に正確な発音、簡単な会話を習得させると同時に中国文化、現代中国事情も把握してもらうのが本授業の目標である。また、学習を終えた時点で、多くの受講生が中国語検定試験準4級に挑戦できるように指導することも目標の一つである。授業計画として、簡単な発音、声調から学びはじめ、次第に日常会話、基本的な文法へ進んでいく予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。	
				中国語Ⅱ		本授業は演習形式の中国語中級授業である。半年30コマの学習を通して、初級で学習した中国語文法と単語をしっかりと消化した上で、日常会話をさらにグレードアップし、中国語検定試験準4級合格を目指すことを目標としている。授業計画として、旅行、買い物、趣味、留学などさまざまな会話場面を設定し、グループ学習と会話練習を行う予定である。予習、復習を充実させるため、授業ごとに宿題を用意している。繰り返し宿題をすることによって、学習した内容を復習できると同時に新しい学習の基礎もしっかりと築いていく。	
				中国語Ⅲ		本授業は演習形式の中国語上級レベルの授業である。初級と中級で学習した内容をベースにし、ワンランク上の総合的な学習を行う。学習の目標としては「ネイティブ並に中国語を話すのではなく、ひるむことなく学習した中国語でコミュニケーションできる」ことである。また中国語検定試験準4級、4級合格を目指すことも本授業の目標の一つである。授業計画として、中国語での「聞く、話す、書く」能力を強化する。中国語検定準4級、4級に必要な単語を覚え、文章の読解力とヒアリング能力を向上させる。	
				コリア語Ⅰ		日本と朝鮮半島は長い交流の歴史を共有してきた。とりわけ近年、文化的交流が急進展する中で、お互いの言語を学ぶ人が急増している。ハングル（韓国文字）は非常に科学的かつ合理的な文字である。またコリア語は日本語と語順や文法が驚くほど似ているので、最も学びやすい外国語でもある。本科目では、コリア語の運用力を獲得するための基礎力をしっかりつけ、単に知識だけを積み上げるのではなく、学んだことを使えるようにすることをめざすとともに、言葉の違いを通して見えてくる文化や考え方の違いなどを理解する。授業はSteven Herderが統括し、指導補助者が一部を担当する。	
				コリア語Ⅱ		コリア語Ⅰで学んだことをより発展させ、中級レベルの語学力を習得する。ヒアリング、発音の反復練習などを通じて、日常会話に必要な読解、会話、作文の能力を高め、多様な表現力を学んでいく。具体的には、グループによる参加型の学習法を活用し、中級レベルの日常会話に必要な文法と会話力のレベルアップをはかる。また、韓国に対する理解を深めるため、伝統的な民族文化や映画、音楽などに関する情報も一緒に学んでいく。授業はSteven Herderが統括し、指導補助者が一部を担当する。	
				コリア語Ⅲ		コリア語Ⅰ・Ⅱで学んだことを再確認し、重要な全ての文法をマスターする。辞書さえあれば、新聞、雑誌を読んだり、インターネットでハングルのネットーサーフィンを楽しめるほどの読解力を持つとともに、ハングルで日記やメールを書いたり、会話をなめらかに行うことができるようにする。韓国のウェブに載っている情報や雑誌のコラム、新聞のニュース、Kポップの歌詞など多彩な資料を活用しながら、社会生活や仕事にも役立つようなより実践的な語学力、会話力を獲得する。授業はSteven Herderが統括し、指導補助者が一部を担当する。	
				海外研修（語学）Ⅰ		韓国語の語彙、文型、会話、聴解、読解等の学習を通して運用能力（初級～中級）を高め、韓国語でコミュニケーションができる語学力を身につけること目標とする。夏期休暇期間中の約3週間（授業は計60時間）、韓国の協定大学にて実施する。語学のみならず、韓国の歴史、文化、生活様式や社会事情への理解を深めるとともに、韓国人学生との交流活動を行い、実践的に学ぶ。初日に語学レベルを測るプレースメントテストを行い、授業は、韓国語演習（48時間）、韓国語特別講義（6時間）、韓国文化講義（2時間）、韓国文化の実習又は見学（4時間）で構成される。	

科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	外国語		海外研修（語学）Ⅱａ		春期休暇中にオーストラリア又はアメリカの協定大学において英語の集中授業を受講する。英語のスピーキング、リスニングを中心とした英語コミュニケーションスキルを習得すると同時に、訪問国の歴史、文化、自然、社会等への理解を深め、異文化への適応力や国際性を身につけることを目標とする。オーストラリアではSpoken English、 Oral Presentation、 Australian Studies等、アメリカではEnglish Conversation、 Presentation、 Discussion、 American Culture等の授業で構成される。	
				海外研修（語学）Ⅱｂ		夏期休暇中に英国又はカナダの協定大学において英語の集中授業を受講する。英会話を中心としたコミュニケーションスキルと総合的な英語運用能力を向上させることを目標とする。さらに、訪問国の歴史、文化、生活、社会事情等の理解を深め、異文化の中で積極的に行動できる力と国際的な視野を身につける。英国ではCommunication Skills、 British Culture、 Presentation等、カナダではOral and Written English Communicaton、 Conversational Idioms、 Canadian Culture等の授業で構成される。	
				日本語講読Ⅰ		日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
				日本語講読Ⅱ		日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、日本語の多様な文章の理解と習得を中心に、シャドーイングによる口頭練習も加え、日本語の適切な運用能力を身につけることをめざす。	
				日本語表現Ⅰ		日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを既習の日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	
				日本語表現Ⅱ		日本語を母語としない外国人留学生が日本の大学で学び卒業するためには、非常に高い日本語能力が求められる。留学生にとっては第二の言語である日本語でなされる授業を聴き、理解し、レポートを書き、試験を受け、さらに卒業論文を書かなければならないからである。これらの目標を達成するために、さまざまなテーマについて、新聞、雑誌、専門書などから必要な情報を得て理解・分析し、そこから自分の考えを適切な日本語の表現を使って文章化していく能力、および口頭で発表する能力を養う。	
				日本語特講Ⅰ		日本語を母語としない外国人留学生を対象に、日本における様々な文化や社会問題について、毎回様々な資料を読み現状を理解させる。その後、インタビュー、アンケート調査や文献調査を行い、そのテーマについて発表させる。授業内でのディスカッション、ディベートなどの自主的な協同学習活動を通してそれぞれのテーマについての認識を深めさせる。これらの言語活動を通じて日本語コミュニケーション能力、運用能力も身につけられるようにする。また、文法・語彙などのタスク、クイズを実施し、豊かな表現も身に付けられるように指導する。	
				日本語特講Ⅱ		日本語を母国語としない外国人留学生を対象に、日本における小説、論説文、俳句、詩などの多様な文章を読解したり、テレビ番組、ビデオ、落語などを視聴したりする。これらの活動を通して、日本で日常使われている多様な表現を学び、同時に現代日本社会の諸問題を考えさせ、タスクを行う。それを基に自分の意見をまとめ、わかりやすく相手に伝える演習を行う。論理的に文章にまとめることで書く力も養う。また、文法・語彙などのタスク。クイズを実施し、表現をさらに豊かにできるように指導する。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	基盤科目	スポーツとウェルネス	女性と健康		本科目では、医療の基礎的知識・医療用語の習得と生活習慣病をはじめとする代表的な疾患の診断方法、治療などを体系的に理解していく。すなわち、①医療における基礎的な用語を使うことができる、②代表的な疾患の概念を説明できる、③代表的な疾患の診断・検査法を説明できる、④代表的な疾患の治療方法を説明できる、⑤代表的な疾患の予防法について説明できる、等のことを目的とする。	講義15時間 演習15時間
			人体の構造と機能及び疾病		近年、iPS細胞や遺伝子治療など医学・医療の進展は目覚ましく、医療機関の機能は益々複雑になりつつある。医療が疾病構造の変化や国民の意識、患者のニーズによって時代と共に変遷することはいうまでもないが、「病める人」 を治療したりケアするという医療の本質はいつの世も変わらないことを銘記しておく必要がある。最近の医療では、サービスの質の向上や専門的分野の高度化により、医師だけでは完結できないことも多くなっている。今日の老化の問題を含めて福祉医療に携わる将来のために、基礎的かつ実践でも役立つ一般的な医学的教養を学習する。	講義15時間 演習15時間
			体育講義		「健康」について、心とからだの両面からの理解を深め、自らのからだを具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。またスポーツや体育の原理・原則について理解することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。 ・現代の健康に関する問題について理解する。 ・スポーツや運動の実践が身体・精神に与える影響について理解する。 ・日常生活にスポーツ、運動をどのように取り入れるかについて考察する。 ・発育発達と発達段階に応じたトレーニングについて理解する。	
			体育実技		心身ともに健康で豊かな生涯を送るための基礎知識を身につける。特に、健康の重要性について理解を深め、履修者自身にとってより良い健康づくりの内容と方法を習得し、運動の生活化を図ることを目標とする。 ①人間の身体活動の基となる体力・運動能力の向上を図る。②運動の生活化を図ることにより、生涯にわたる健康の土台を築く。③スポーツ実習を通じて、自他を尊重する能力、仲間と強力し切磋琢磨し合う能力の向上を図る。	
			健康スポーツ演習		スポーツの実践を通して、体を動かす楽しさや爽快感を知る。その上で、生涯を通してスポーツに親しむ態度を育成することを目標とする。教育の個別課題は以下のとおり。　自分自身の健康や体力にも目をむけ、生活をより健康的に送る力を身につける。・様々なスポーツを経験し、運動の楽しさを実感する。・スポーツを通して、他者と積極的に関わりを持つ。・スポーツテストにより、自分自身の健康と体力について考える　機会とする。	
女性キャリアデザイン連携科目	基盤科目		女性キャリアデザイン概論	○	本科目は、この学環における基盤となる科目であり、大学4年間を通じ自らのキャリアをデザインし未来を切り拓いていく力を身につけていくために必要となる基礎的な知識を獲得することを目標とする。キャリアデザインについての基本的な考え方と方法について概観するとともに、女性がライフキャリアおよびビジネスキャリアを設計する上で知っておくべき主要な社会制度・法令等について学修する。さらに、コミュニケーションやリーダーシップ／フォロワーシップのあり方について、キャリアデザインの観点から考察する。 （オムニバス方式／全15回） （7 平野　美保／4回） キャリアデザインの基礎と理論、コミュニケーション論をを担当 （4 Steven Herder／4回） リーダーシップ論、フォロワーシップ論を担当 （1 岩崎　れい／4回） 女性のキャリアデザインにおける社会背景と制度を担当 （8 光末　香惠美／3回） 働く意義とキャリア開発を担当	オムニバス 講義15時間 演習15時間
			基礎演習Ⅰ	○	本学の学生としての自覚を育むとともに、アカデミックスキルおよびキャリア形成に関する基礎的な知識や技能、能力、態度を身につけることを目標とする。授業は少人数による演習形式で進行され、本学の建学精神や教育理念についての理解を深めるとともに、大学の授業や単位制度の仕組み、図書館の利用方法、レポートの書き方等について実践的に学修する。各回の授業内容については、可能な限りライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関連した題材を用い、必要に応じてフィールドワークやワークショップ等の体験的活動を盛り込みつつ、基礎演習Ⅱの学修内容との関連性・連続性に留意して系統的に構成する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	基盤科目	基礎演習Ⅱ	○	基礎演習Ⅰに引き続き、アカデミックスキルおよびキャリア形成に関する基礎的な知識や技能、能力、態度を身につけることを目標とする。授業は少人数による演習形式で進行され、文献・資料に対する精読や批判的読解の方法、アイデアの創出と整理の方法、プレゼンテーションの方法等について実践的に学修する。各回の授業内容については、可能な限りライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関連した題材を用い、必要に応じてフィールドワークやワークショップ等体験的活動を盛り込みつつ、2年次の「発展演習」の学修内容との関連性・連続性に留意しつつ系統的に構成する。	
		女性とライフキャリア		本授業では、学生生活を終えたあとの長い人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身につけ、考える力を養成することを目的とする。特に職業キャリアと家庭生活の両立は、男性以上に女性にとって大きな人生の課題として立ちはだかるだろう。そのために、あらゆるライフキャリアの可能性を検討し、予測される課題にどのように対処できるのか検討することは重要である。また、生きる目的のひとつに社会活動に参加するというものがあることを知り、自分や自分の家族のためだけではなく、社会に貢献するために自分はなにができるのかを考える。	講義15時間 演習15時間
		子育てとワークライフバランス	○	現代日本の子育ておよび女性のライフキャリアの現状や課題について基礎的な知識を得るとともに、企業から見た女性の労働とワークライフバランス、仕事と子育ての両立、教育現場、地域社会における活動、経済的自立などについて、外部講師による「母」「父」「企業」「メディア」等、多様な視点からの講義を通じて学び、女性の生き方を深く考察する。また、実際に子育てと仕事の両立をしている講師から話を聞きくことで、受講生自身の生き方を考えることを目標とする。日頃から新聞をよく読み、現代日本の子育てを取り巻く環境に関心を持っておくこと。	講義7.5時間 演習7.5時間
		ライフプランニング論		ライフプラン（生活設計）は、かつては家族を単位とした将来の経済準備とほぼ同義であった。しかし、社会や生活環境が短期間のうちに変化し続け、未婚化・晩婚化、少子高齢化などが急速に進行する現代社会において「ライフプラン」の考え方を捉えなおさなくてはならない。このような現代社会の変容を踏まえ、本講義では、ライフプランを「ライフデザイン」「生活資源」「生活リスク」の３領域をマネジメントし続ける連続的な活動とし、生活経営学の研究やその実践の成果を学びながら、人生100年時代のライフプランを描くための基本的な知識を習得することを目指す。	
		ビジネスの基礎Ⅰ	○	社会人として求められる一般教養、コミュニケーション力、考えるための知識をまず身につけ、次に、自分なりの考えをまとめ企画作りに入り、未来を考える力を育てることを目標とする。世界を広げるための基礎力の養成として、新聞、テレビ、映画、通信、広告などのメディアの特質とその個性、社会参加の様々な方法、ビジネスにおける情報の価値、などを学び、今後の社会の情勢、コミュニケーション力とは何か、自分たちの世代の強みを考察し、実際にテーマに沿った企画を立てることで、知識を使いこなして自分の意見を形成・発信できる力を身につける。	
		ビジネスの基礎Ⅱ	○	短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行い、考える力とそのために必要な知識の組み立て方、話し方、聞き方、文章作成能力を総合的に育成する。さらに、新聞とネットニュースとの違い、読書の楽しさの再確認、高度なディスカッションを通じての自己確認を学び、グループでの企画書作成、そのプレゼンテーションを行う。さらに、今後の社会・企業・家庭、働き方と幸福度の関係を考察し、各自で自分の目標について改めて考えて発表することを通して、生涯にわたって学び続けるという姿勢を形成する。	
		ホスピタリティ入門	○	「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。ホスピタリティの語源、ホスピタリティと文化、地域や文化・文明による差異などを考察する。　パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回小レポートによりホスピタリティを考察する。	講義15時間 演習15時間
		プレゼンテーション概論	○	本科目は、実社会でのプレゼンテーションの方法論を把握し、社会における企業などの現場で応用することができるようにするための素地を養うことを目的とする。　企業などの実社会でのプレゼンテーションに関する準備、練習の方法を理解し、理解したことを直ちに実践することを通して、具体的な方法の把握とともにプレゼンテーション実務に関する基礎を習得する。具体的には、1つのプレゼンテーションを、順を追って実践しながら学習することを通して、社会生活におけるプレゼンテーションに関する知識とプレゼンテーション技能の向上を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	基盤科目	Women in Leadership	○	近年、世界は多くの分野で大きな変革を迎えており、その変革を成功裏に導くリーダーシップが非常に重要となっている。日本においては、今後の成功の鍵として女性が重要な役割を果たすと考えられる。従って、女性リーダーシップに特有の問題に精通していることが有益である。これには、ジェンダーによるリーダーシップスキル、グローバルジェンダーギャップ、インポスターシンドローム、自信のギャップ、そして「なでしこブランド」やクオータ制度などの女性を支援する日本の取り組みも含まれる。	
	展開科目	現代社会と家庭経営		経済の低迷や少子高齢化の進展のため、日本社会は既存の社会システムからの大転換期を迎え、この混沌とした社会においては「生きる力」と主体的な生活を営む知識の習得が求められる。本授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につけ、家族形態と機能が変化するなかで、現代の家族が抱える問題を学び、主体的に生きる消費者としての知識を習得を目指す。具体的には、生涯を見通した家計の管理能力を育成し、現代の消費者問題への理解を深め、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営について考察する。	
		消費生活		「消費」とは人びとの欲求を満たすために財やサービス（商品）を使うことを指す。個人や家族の生活を維持・向上させる人間の行動の一つであり、現代ではその行動が社会のあり方や変化と結びついている。この授業では、消費生活に関わる知識を幅広く学び、消費者として自主的、かつ実践的に考え・行動できるための基礎的な知識を身につけることを目標とする。身近な話題から地球規模の問題までも含めて消費に関わる様々な事象を検討しながら、消費とは何か、安全・安心、豊かで持続的な消費生活を実現するにはどうすればよいかを考えていきたい。	
		生活経済学		現代の社会や経済環境は、グローバリゼーション、新自由主義、高度情報化によって急速に変化しつつあり、現代社会に生きる若者は、親世代とは異なる環境の中で、持続可能な社会に向けた新たな生活様式を創造して人生を設計しなくてはならない。本講義では、生活とは何か、生活と経済の関係を理解することを出発点として、良き人生をプランニングするために必要な生活経済に関する知識を習得すること、持続可能な社会を実現するために、社会の構成員としてどのように消費生活様式を選び取っていけばよいかについて考えられる力を身につけることを目標とする。	
		家族社会学		この授業では、ファインマン（2009）のケア理論に依拠し、現代社会が直面するケア問題を考える。まず、エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論（2001）と落合によるアジアのケアダイアモンド（2013）からアメリカ、ドイツ、スウェーデン、中国、日本の５カ国の育児と介護事情を受講生に調べてもらう。次に、受講生による報告をとおして５カ国間比較を行い、各国のケア事情の類似点と相違点を明らかにする。最後に、これからのケアのあり方として、個人（家族）や日本社会がどのようにかかわるべきかを、持続可能な社会の構築という視点から検討する。	
		生涯学習概論		生涯学習の理念やその社会的・歴史的背景、日本における政策的展開と課題などを理解することを目指す。その際、特に生涯学習社会の重要課題の一角に位置づく「学校外、地域における子ども・青少年の育ち・学び」の現状にも注目する。具体的には、ユネスコにおける1960年代の生涯教育論の提唱とその後の展開、日本における生涯学習政策の歴史と国・地方の各レベルでの生涯学習政策・施策の概要、生涯学習社会において求められる学校教育のあり方、「社会教育」をめぐる戦前・戦後の歴史と現状、社会教育施設としての公民館・図書館再考などについて学ぶ。	
		マーケティング論	○	感覚的なことを上手に数値化するというのが、現在の「マーケティング」であり、本授業では、数値を読むことができる基礎を育てる。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てることを目標とし、社会におけるマーケティングとは何かということを概観する。主な内容としては、データの読み方、集め方、企業の商品開発の進め方、イメージの数値化、ビジネスチャンスをデータから発見、調査票作成、これからの時代のお金の運用などを演習的に行いながら、現在のマーケティングの課題とこれからのマーケティングの可能性を探る。	
		ソーシャルマーケティング論	○	従来の企業活動では見落とされがちな社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直し、現代社会の問題点について考える授業である。「ソーシャルマーケティング」という新しい概念を理解するため、企業の存在意義や社会保障制度の必要性、国や公共事業体の可能性、「法人」についての知識、世界の社会保障制度とその歴史、日本の問題点などを考察する。社会が幸福になる企業活動とは、介護や保育に求められるマーケティングとはなにかなど、現代社会の事象を「自分の問題」として考え、グループディスカッションを通じて探究する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	女性起業論		女性が会社や組織を設立する動きが活発化している。こうした女性による企業の動機や背景、経営手法などをみると、男性とは異なる特徴が多くみられる。この科目ではこのような特徴をとらえながら、生活・福祉の分野を中心に現代社会にみられる女性起業家の実像に迫っていく。主な内容は、女性のライフスタイルと雇用環境の変化、女性起業家の事業の特徴や企業の多様な形態や企業支援策を把握し、新たなニーズに対応した商品・サービスに注目し、事業計画、経営計画をたて、社会において効果的なプレゼンテーションができるように学んでいく。	
		ＩＣＴビジネス論		本科目では、近年、進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されているAIを中心に、ICTビジネス（特にネットビジネス）の基礎技術及び最新知識を学ぶ。日頃何気なく使っている検索エンジンやSNSツール、ショッピングサイト等の様々なアプリケーションやソフトウェアはICT技術の発達とともに我々の生活に欠かせないものになっている。これらについて、その基盤技術や変遷を学び、未来の社会の姿を考える。新聞やビジネス誌で頻繁に登場するIoT、 DX、 機械学習、 データサイエンス等のICTに関する用語についても実例を交えてわかりやすく解説する。ICT技術をより身近に感じ、今なお進化するデジタル社会に必要不可欠な知識や発想を身につける。	
		消費者行動の心理学	○	消費者行動とは、消費行動、購買行動、買い物行動を総称する概念であり、私たちの日常生活にとって大変身近なものである。本授業では、消費者側の購買行動が促進される要因を消費者の心理や特性という観点から明らかにするとともに、集団や社会の観点からも考察し、私たちの消費者行動について心理学的に解明する。また、消費者行動を理解するにあたり、消費者自身の行動を理解するだけではなく、売り手側の理解、例えば、マーケティング戦略に対する理解も必須である。本授業では消費者行動に関する理論や概念の理解を第一の目的とし、さらに現代社会で起こっている消費者行動や心理について具体的に説明できるようになることを第二の目的とする。	
		産業・組織心理学		本科目では、組織と関わる中で生じる心理・行動上の問題を心理学の概念を用いて理解し、対処が考えられることを目的とする。特に、ワークモチベーションの高低が生じる仕組みの理解、組織・キャリアへコミットすることへの意義の理解、集団生産性・リーダーシップの有効性を規定する要因の理解と集団作業を効率的に進める際の対処の視点の獲得、そして組織ストレスの特徴の理解とその対処法を考えられるようにすることを目指す。	
		ホスピタリティ研究	○	「ホスピタリティ入門」で学んだ「自分」「相手」「社会」におけるホスピタリティ発揮に加え、ホスピタリティの考え方を用いた組織マネジメント、ホスピタリティ・マネジメントによって企業の競争力がどのように高まっていくのかを学ぶ。人的資源管理、ユニバーサルサービス、ダイバーシティ＆インクルージョンなどについてパワーポイントを使用した講義に加え、動画を視聴する。講義中、教員や学生同士とのディスカッションを多く取り入れることにより、社会人として必要な「自分と異なる意見や価値観に触れ、自らの考えと融合して周囲に発信する力」も養っていく。	
		ホスピタリティ＆キャリア	○	様々な生き方が選択できる現代において自らのキャリアを自ら描いていくことの必要性、重要性について学ぶ。キャリアとは何か、働くとは何か、社会人基礎力について講義、動画、ロールモデルインタビュー等を通じて学んだあと、自己のキャリアの振り返り、ストレス対処方法、スピーチ、面接、グループディスカッションについては、学生同士のグループ演習を繰り返す。毎回、感想レポートを提出し、教員は、個々人の状況を見極め、成長につながるフィードバックを実施する。全15回終了後、各授業におけるポイントや自身の感想をまとめた「キャリアノート」を提出させる。各学生が、キャリアについての考えを深め、失敗を恐れることなくこれからの人生を自信を持って歩んでいくための基盤づくりを目的とする。	
		旅行観光業研究		観光資源保護の重要性やわが国観光政策がたどった経緯をとおし、観光をとりまく環境とそれに対応する観光・旅行産業の動向を踏まえ、わが国が目指す「観光立国」の課題と展望を考察することを目的とする。観光立国を目指すわが国の動向や政策を理解し、その課題や展望を説明できる知識を身につける。観光資源の保護と観光のかかわりを理解し、観光・旅行産業のあり方を考える。毎回、授業用に作成したパワーポイントを使って授業を行う。また講義に関連した動画も使い理解を深める。パワーポイントに沿った資料を配布し特に留意すべきポイントについては、受講者が自らパワーポイントから得た内容を記入することで、授業の要点を把握する構成としている。毎回、授業後に理解度と学習状況把握のためレポートを提出してもらう。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	ホテルビジネス研究		ホテル事業の基礎的な事業知識や実態について理解するとともに、在庫のできないサービス財、固定比率の高い産業特性を考察し、その課題や将来展望を説明できる知識を身につける。また、様々なホテルの経営方式の違いを学習し、チェーンビジネスの特性を理解する。毎回、授業用に作成したパワーポイントを使って授業を行う。また講義に関連した動画も使い理解を深める。パワーポイントに沿った資料を配布し特に留意すべきポイントについては、受講者が自らパワーポイントから得た内容を記入することで、授業の要点を把握する構成としている。毎回、授業後に理解度と学習状況把握のためレポートを提出してもらう。	隔年
		エアライン・サービス論		航空機の運航（オペレーション）に関わる業務内容や必要な要素を「顧客接点がある部門」から学ぶ。講義や各職種の現役社員をゲストスピーカーとして招聘し、実体験を聴くことにより、航空業界を通じて「会社が組織として共通の目標を達成するために多種多様な職種の社員が専門性を磨きながら共生していること」を理解する。毎回の小テストと感想レポートで理解度を確認する。	
		エアライン・ビジネス論		世界と日本における航空輸送の歴史、規制緩和の流れを押さえた後、エアラインのネットワーク、アライアンス、レベニューマネジメント、FFP、顧客満足、ブランド、商品戦略等の企業戦略や貨物事業、LCC事業、さらに社会への責務としてCSRや安全への取り組みについてANAグループの具体的な事例をもとにテキストやパワーポイントの資料を使って講義主体で進めていく。関連動画も視聴しながらエアラインの概要について理解を深める。毎回実施する航空関連ニュースの発表を通じて最新トピックスに広く関心を持ち、主体的に情報を収集する習慣を身に着ける。小テストと総まとめテストで理解度を確認する。	
		現代ジャーナリズム入門		近年、厳しい社会情勢が続き、「ニュースを読む力」がますます求められ、日常と激動する世界を関連づけて見る目（情報分析力）と迅速な対処は欠かせない。18歳から選挙権を持つこととなった今、国政や外交、経済、社会への正しい知識と理解は社会人への第一歩である。この講義は様々なニュース、取材するジャーナリズム活動を知り、「ニュースを読む・語る」を軸に、その初歩的応用（書くこと）まで学習できるプログラムである。毎回、いくつかのニュースを紹介し、その読解と取材・解説の目線を講義する。自分の意見と疑問が持て心がけてほしい。	
		現代出版事情		現在大きく変貌を遂げている本や雑誌をめぐる状況を知り、それを取り巻く課題についての理解を深めることを目的とする。新古書店、オンライン書店、オンデマンド出版、そして街の本屋や古本屋などの様々な出版流通の現状について知る。そして電子出版の新しい動きにより、出版そのものの成り立ちも今後大きく変わりうることから、こうした出版の現代的な実情と文化について、国際的な視点も取り入れつつ検討していく。現代の読書形態、表現の自由と出版に関する倫理、著作権、学術情報の流通、マンガなどの日本独特の出版形態について理解を深めるとともに、これからの出版文化について考察する。	
		メディアコンテンツ表現法		現在の社会では、個人、企業などの組織のさまざまな活動において、従来の印刷メディアなどに加えて、ウェブサイト、ソーシャルメディアなどを通した情報発信がより広範囲に行われるようになっている。過去には一部のマスメディアのみが可能であった映像情報の発信も、現在では多くの個人、組織によっても可能となった。情報発信に携わる機会が増加するにつれて、人々がそのための技術、知識を身につける重要性が増している。本講義では、映像表現を中心として、情報を効果的かつ適切に作成し、発信する上での知識、技術を学ぶ。情報発信の企画から、特に映像表現の分析に基づいた効果的なコンテンツの作成、様々な情報メディアに最適な表現やデザイン、編集方法、著作権や知的財産権、情報倫理といったトピックを取り扱う。これらを通して、企業や公的機関におけるPRなどの様々な分野に応用できる能力を身につけることを目指す。	
		京都資料論		京都に対する理解を深めるにあたって、その郷土資料は有用であるため、資料そのものを知り、またその利用方法を身につけることをめざす。公共図書館が郷土資料を所蔵することの意義を知り、京都関係の図書、雑誌、新聞記事など資料の種類ごとの調べ方を理解すること、調べ方を知るためのパスファインダーや実際に資料を調べるためのデータベース、また現代と過去との関係を知る基本となるオーバーレイマップなどを使いこなせるようになることなどを学習内容に盛り込む。そのため、東寺百合文書など貴重な郷土資料を所蔵する京都府立京都学・歴彩館での演習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	京都学		歴史的にも日本文化の中心である京都の歴史・信仰・文学・歌舞音曲・芸能・祭礼・生活習俗などを幅広く採り上げる。伝承、陰陽道と暦との関係、仏教と梵鐘との関係、植物の生態と逸話、小野小町や在原業平と京都との関わりなどをトピックとして取り上げる。それらへの理解を通じて、受講生ひとり一人が京都文化の見取図を得て、さらに日本文化そのものの特質へと考察を進めてもらうことを本科目の目標とする。	
		図書館概論		地域社会において公的な情報基盤となる図書館についての基本事項を理解する。図書･雑誌から電子出版物にいたる多種多様な情報資源と、それらを扱う図書館の役割及び機能を理解する。また、これら情報と利用者をつなげる様々なサービス、試み、そして図書館機能と関連の深い著作権や出版流通制度について学び、情報ネットワークの時代における図書館の責任や役割について認識を深める。	
		図書館サービス概論		利用者があらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できる地域の情報センターであり、そのサービスは、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて運営される公共図書館について、サービスの具体的な内容を理解することをめざす。具体的には、貸出等の資料提供サービス、レファレンスサービス等の情報提供サービス、利用対象別サービス、ビジネス支援等の課題解決支援サービス、他機関との連携などについて理解し、またサービス提供にあたっての接遇についても学ぶ。	
		子どもの読書とメディア		現代の社会状況や文化的背景を踏まえ、子どもの読書やメディアをめぐる諸問題や、文化における読書・メディアの位置づけを考察する。子ども向けの作品について、アニメ作品と原作の比較、絵本に込められたメッセージの理解、古典やノンフィクションの読み方など多様なジャンルについて読み込む。また、児童書についての社会的・歴史的背景、国語科教育における読書、インターネット・ゲームなどメディアの諸問題、日本の児童文化をめぐる国際的な動向などを考察し、現代社会における子どもとメディアをめぐる課題を理解することを目標としている。	隔年
		コミュニティと福祉	○	本科目では、こどもから高齢者、障害者等、さまざまな人の暮らしの場である地域について理解し、そこで起きている現代の多様な課題を知り、それらを解決し、誰もが暮らしやすく一人ひとりが安全、安心して暮らせる地域を構築するために誰が何をどのように活動等することができるのかを考えることを目標とする。そのために、コミュニティとは何か、地域福祉が必要な理由、地域福祉の原理・原則に関する考え方、コミュニティ活動について理解することを目的とする。	
		社会・集団・家族心理学	○	社会で生きていく上で、他者と上手に付き合ったり、仲良くなることは重要である。しかし、世の中にはさまざまな物の見方（バイアスや偏見）が存在し、それらが他者との関係に悪く影響する。本科目では、人が様々なバイアスや文脈（社会）からの影響を受けて考え、悩み、ときに間違え、判断し、行動しているかを理解することを目指す。更にそういった人の判断や行動が個人内で完結せず他者や社会に影響を与えていることを理解することを目指す。それによってさまざまな人々と共生・協働する力を身につけることを目指す。	
		国際関係論		国際関係の歴史的変遷、戦争と平和に関する思想、外交と安全保障に大別して解説する。国際関係の歴史、戦争と平和の思想、外交安全保障に関する基本的知識を習得し、現代国際関係の諸課題を理解できるようになることを到達目標とする。その際、近代以降の国際関係の基本的なしくみを知り、それによって私たちの日常と国際社会が互いにどのように影響しあうかを理解することによって国際社会の出来事に対しても、自身と関連付けて見られるようになることもめざす。	
		比較文化概論		比較により物事の特徴を捉える学問的方法論を身に付けると共に、様々なテーマを通じて他の国・地域の文化と日本文化の特徴を学ぶことを目標とする。絵画・音楽や文学などの芸術、宗教観・死生観・動物観・自然観などの思想などを具体的に学ぶことを通して、日常生活の身近な事象から国際社会の大きな動向まで比較文化的観点から学問的に理解できるようになることをめざす。同時に、異文化との比較により自文化を客観的に相対化する視点を養うと共に、異文化と自文化の両方の理解を深める。それを通じて、それぞれの文化に優劣はなく、互いに敬意を払い尊重し合う姿勢や感受性を涵養する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	多文化理解	○	本科目の目標は、中東を舞台とする映画を通して、そこに住む人々の歴史、生活、宗教、伝統などについて学び、多文化理解を深めることである。戦争、抵抗運動、スポーツ、恋愛・結婚等のテーマを描いたイランやアラブ映画を鑑賞するだけでなく、各映画についての背景知識も学習する。映画に登場する人々の生活や思考・行動様式は、わたしたちとどのように違うのか、その違いをどのように受け止めればいいのかを考えることで、多様な価値観を尊重し、異なる背景を持った人々と共生していく力を身につける。	隔年
		識字活動と子どもの権利		読み書き能力すなわち識字能力は、人間が社会的な生活を送る上で欠くことのできない能力であり、その育成には出版物の充実も重要である。国際社会における識字教育及び出版支援への取り組みや考え方を知ることを通して、国際社会の識字活動の現状とその社会的背景、日本国内の外国人児童や特別なニーズを持つ子どもたちの現状と社会的課題を理解する。同時に「書くこと」や「読むこと」を学ぶことの意義とそれが社会にもたらす変革について知ることを目指す。	隔年
		Popular Culture		本コースは、英語圏における現代の課題に関連する多様なポピュラーカルチャーの形態を深く探求することを目的とする。内容は、最近のトレンド、ビジネス、メディア、政治家への評論や風刺を行うトークショー、音楽、YouTubeチャンネルを含む。コース全体を通じて、対話や議論の重要性を考慮し、ポピュラーカルチャーやメディアに対する批判的な視点を育成する。コースの最後には、日本における類似のメディア形態に関するリフレクションセッションも設ける。	
		Global Issues		2015年、国連は2030年までに達成すべき17の持続可能な開発目標（SDGs）を導入した。これらは、貧困、不平等、気候変動、環境の劣化、平和、そして正義といった幅広いトピックに焦点を当てている。本コースでは、これら17のSDGsの視点を通して、学生は彼らの考え方とグローバルな視野を広げることを目的とする。研究、議論、およびプレゼンテーションを通じて、彼らは我々のグローバルなコミュニティと世界中の人々の現実についてのより深い理解を得ることを目指す。	
		ことばとコミュニケーション		本講義では、コミュニケーションの中心となる 『ことば（象徴記号）』の側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を考察していく。１．言語コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。２．言語コミュニケーション成立における「ことば」の果たす役割を考察し、人が言語メッセージを理解し解釈するプロセスを理解する。	
		異文化間コミュニケーション		本講義では、文化背景の異なる人々の間のコミュニケーションについて理解を深め、より効果的な異文化間コミュニケーションに必要とされるものについて考察する。異文化間コミュニケーション学は、欧米で創始・発展した学問であるため、それら欧米の文化・社会・歴史と日本のならびにアジア圏の文化・社会・歴史を比較・検討することで、文化・社会・歴史によって人々のコミュニケーション行動の「何が」「どのように」「どのくらい」異なっており、そのような違いが、文化・社会・歴史のどの側面によって引き起こされているのかについて学習する。また、そのような違いを克服するために、認知、情動、行動（スキル）の各側面で、何が必要とされるかについても学習する。	
		対人コミュニケーション		コミュニケーション学の視点から、コミュニケーション全般について理解を深める。それにより、コミュニケーションが社会においてどのような役割を果たしており、よりよくコミュニケーションするために何が必要であるのかについて学ぶ。他者との相互作用の中でどのように私たちは自分のことを他者に伝えるのか。どのようにすれば他者の持つ自己の印象を操作することができるのか。他者の意見や行動を効果的に変えるにはどうすればいいのか。マスメディアや広告はどのように人々の態度や考え方に影響を与えるのか。インターネットをはじめとする新たなメディアは、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、といったことについてコミュニケーション学の視点から学習する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	展開科目	日本語の朗読	○	この科目では、発声・発音の基礎を習得し、豊かな音声表現力を身につけることを目的とする。そのために、基礎練習の方法を理解し継続的に練習する。また、他者とともに朗読会を2回行う。1回目では、表現することに対しての羞恥心を克服し、望ましい音声表現の方法などを把握する。2回目では、1回目の経験を基に、他者と調和した豊かな音声表現力の向上を目指す。	
		接遇のための日本語		人間のコミュニケーションの背景にある「協力」と「共有」という社会的動機に目を向けつつ、社会の中での「接遇」が人間関係に及ぼす影響について学ぶ。具体的には社会における人間関係と「敬語」、人間関係をうまく循環させる『ホウ・レン・ソウ』の役割とタイミング、「きく」ことの社会での重要性、若者ことばやSNSで使用される「ことば」などについて考察する。その上で、接遇における「話しことば」と「心あるもてなし」を理解し、実践的なコミュニケーションワークでことばの力を磨くことをめざす。	
	実践・統合科目	ライフプランニング実習		本実習は、「ライフデザイン」「生活資源」「生活リスク」といったライフプランニングの３領域を念頭に置き、自らの「ライフデザイン」をイメージしながら、生活の諸側面（働き方・家族形成・消費・生活保障・家計など）に関連するさまざまなトピックに関する具体的なワークをもとに、自らが幸福と思える人生のプランニングとその資金計画を完成させることを目標とする。毎回の授業は、解説とともに、受講生の主体的なワーク、ディスカッションを組み合わせて行う。	
		ホスピタリティ・スキル演習	○	「ホスピタリティ」を他者に伝える手段（スキル）としてとらえ、社会人として必要な言語・非言語コミュニケーションスタイル、ビジネスマナー、自己表現方法などについて学ぶ。パワーポイントによる講義に加え、ワーク、ディスカッション、発表などを多く取り入れる。授業の中で積極的に挑戦し、失敗し、相互研鑽する習慣を身に着け、日常的行動の中でホスピタリティを特別に意識することなく発揮できることを目指す。実習の習熟度、テストで理解度を確認する。	
		ビジネスマナー演習	○	一般的なビジネスマナーの基本についてテキストを使った講義で学ぶ。さらにTPOに応じて自ら考え、ホスピタリティを土台として品位ある立居振舞が実践できるようなることを毎回の実習を通じて理解する。全体/個別へのフィードバックを実施し、各学生が体得できるようにする。また、現在の生活の中で日常的に行動化できる具体的な事例を考えさせ、実践、習慣化させる。発表やテストで習熟度、理解度を確認する。	
		エアライン研修		エアラインプログラム履修登録者対象。ホテルや空港の現場（バックヤードを含む）を見学したり、実際に働いている社員との直接対話の機会を持つことで自身のキャリア開発の参考とし、就業意識を高めることが目的。見学前後ではチームで行動することの重要性、業界研究、見学後の学びなどについて集中的にディスカッションと発表を実施する。毎日のレポートにより理解度を確認する。	
		京都フィールドワーク研究		京都の歴史について、古代・中世・近世・近代を通じて「現地感覚」から学ぶため、フィールドワークの方法を利用して授業を展開する。人類の過去は文字や絵画といった広い意味での「言語」を通じた表現だけではなく、地形や景観といった「非言語」の表現によっても表され、すなわち、「現地」という「歴史の現場」は言語・非言語問わずさまざまな情報に満ちあふれているからである。先行研究の積み上げをまずしっかり学びながら、「現地」を観察する視点・技術を養っていく。その上で、歴史学・考古学・人類学・地質学の各分野の特性を把握しながら、総合的に理解を組み上げていく「技法」を培うことをめざす。	
		コミュニティ活動実践	○	コミュニティには、こどもから高齢者、障がい者や生活困窮者など多様な人が暮らしている。現代社会において、人々が抱える課題やニーズは複雑、多様化し、潜在的なものも多くなっている。そこで本演習では、地域で起きている多様な課題が何かを検討し、それらを解決するために衣食住、家族、福祉の視点で何ができるかを考え、コミュニティを舞台に企画、立案、実践する。このような取り組みを通して、履修生各自が今後の自らの地域生活において、どのようなことに取り組むことが大切か、また生活者を支援する立場としてどのようなことが必要かを体験的に学ぶことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	海外キャリア実習		海外の職場で実際に英語を使って仕事をすることを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける科目である。アメリカ西海岸、オーストラリア、ニュージーランドの三カ所から参加者が選んだ国でのインターンシップを通して、現地の生活、文化、社会事情等への理解も深め、異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。なお、各自の英語力に応じて、インターンシップ先として選べる企業、学校、団体等が異なり、英語力の目安はTOEICの点数で判断する。	
		海外文化研修		外国の文化を現地での体験を通して学習する研修である。事前学習では、現地文化に対するリサーチを行うことで深く理解を高め、海外研修は異文化を知るのみにとどまらず、広い視野と多角的な視点を持ち、文化の多様性を認め、尊重し合う知性を身につけるためのプログラムであることを十分に理解する。具体的な研修内容は年度によって異なるが、海外の伝統文化、芸術文化、市民社会における活動などに実際に触れ、帰国後は研修先の文化と日本の文化とを比較しながら、具体的に認識してまとめ、プレゼンテーションやディスカッションを行う。	
		海外ボランティア実践		本科目は、海外での実際の有意義なボランティア体験を提供することを目的としている。学生は自分自身に対する認識を深め、国際社会をより深く理解し、英語とさまざまな人間関係スキルを使用する練習をする。さらに、学生は自分のコンフォートゾーンの外の新しい状況に適応し、ボランティア仲間からなる国際チームと協力する方法を学ぶ。ボランティア参加者の間においては、英語を使用することと、数週間ボランティアの立場でうまく交流することの両方で、コミュニケーションスキルの向上に焦点を当てる。	
		プレゼンテーション演習	○	数多く実践練習をすることを通して、望ましいプレゼンテーション技法を身につける。効果的なプレゼンテーション技法を習得するために、口頭表現（論理表現、音声表現）や身体表現についての基礎を学習し、事前調査、聴衆分析、ストーリー作り、適切な用語の選択について実践的に課題に取り組み、実際にプレゼンテーションを行う。また、他者にコメントをすることを通して、自己のプレゼンテーションを振り返り、工夫を凝らして、聴衆にとって効果的なプレゼンテーションにすることができること、自己課題を認識し、高度な技能を身に着けることを目標とする。	
		Study Abroad Preparation	○	本学の正規留学制度（セメスター認定留学、米国姉妹校留学）は、半年から1年間、英語圏で生活・学習し、言語的・精神的・知的に成長することを目的としている。留学の目的には、英語圏での観察や交流を学び、留学中に学んだことを英語で振り返り、書くことが含まれる。学生たちは、言語力の向上だけでなく、より大きな回復力、多様性に対する前向きな姿勢、そして自分の人生において主導権を握る能力など、さまざまな面で成長・発展することが期待される。	
		Global Career Skills Development	○	本科目では、 1）高度で実践的な英語力、2）有意義な異文化体験、3）グローバルな視点での問題解決力の3定義を兼ね備えた「グローバル人財」の育成に焦点を当てる。学生は、自分の強みを積極的に活かすために、エモーショナル・インテリジェンス（心の知能指数）と自分のパーソナリティ・タイプを探求しながら、自分自身のハードスキルとソフトスキルを確認し、将来のキャリアに向けて効果的にコミュニケーションする方法の習得を目指す。	
		Intercultural Communication and Acculturation		本科目は異文化コミュニケーション入門コースである。本科目では、世界の異なる文化の人々と効果的に交流し、コミュニケーションをとる方法を学ぶことに重点を置く。学生は、慣れない文化に適応し、成功する方法を学び、異文化に対する実践的かつ学術的な理解を深めることができる。本科目は、海外旅行や海外生活、外国人とのコミュニケーション、英語や日本語の教師、接客業を希望する学生に適しており、また、異文化を理解し、効果的にコミュニケーションできる国際人になるための準備コースでもある。	
		Argumentation and Debate		本科目は、ディベートのストラテジーを身につけることで、議論を評価し、意見を述べ、擁護し、市民的な言論活動を行う能力を向上させることを目的とする。ディスカッションやディベートに参加するための戦略や語彙を学び、使用することに加え、文章や口頭での議論を分析し、それに対して文章と口頭の両方から答える手法を身に着ける。様々な状況（パブリック・スピーキング、Q&A、ディスカッション、非公式なグループワーク）でのスピーキングは、学生の習熟度と自信を高めるのに役立つ。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	Public Speaking		本科目では、学生が人前で話すスキルを伸ばし、様々な公共の場で効果的に話す自信を身につけることを目的とする。学期を通して、効果的に話すために必要なスキルと自信を向上させることに焦点を当てるため、最初は緊張していたり、人前で話す経験が少ない受講生も、急速に上達していくことを認識できるため、コース終了時には、人前で話すスキルが向顧客と接する職業に必要な自信を得ることが可能となる。	
		Persuasive Communication		本科目では、主に説得／社会的影響力の分野におけるさまざまな理論を踏まえながら、学生が説得的コミュニケーション（社会的キャンペーン、メディア広告、対人コンプライアンス獲得など）を理解し、評価する能力を促進させることを目的とする。コース終了時には、(1) 説得力のあるメッセージの解釈・理解・評価方法、(2) 説得力のあるコミュニケーションの企画・立案方法を習得する。	
		ワークショップ（Will）	○	受講者が主体的に活動する参加体験型の科目である。学内外で開催されるワークショップに参加したり、学生や教職員、協力者等と共にワークショップを企画・実行することを通して、他者と協働し、実用的なスキルや、関連した知識、考え方または体験を獲得することを目指す。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Will」に着目し、自分が将来どのような働き方をし、どのような人生を歩みたいのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		ワークショップ（Can）	○	受講者が主体的に活動する参加体験型の科目である。学内外で開催されるワークショップに参加したり、学生や教職員、協力者等と共にワークショップを企画・実行することを通して、他者と協働し、実用的なスキルや、関連した知識、考え方または体験を獲得することを目指す。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Can」に着目し、今の自分にはどのようなスキルがあるのか、どのような強みや弱みを持っているのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		ワークショップ（Must）	○	受講者が主体的に活動する参加体験型の科目である。学内外で開催されるワークショップに参加したり、学生や教職員、協力者等と共にワークショップを企画・実行することを通して、他者と協働し、実用的なスキルや、関連した知識、考え方または体験を獲得することを目指す。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Must」に着目し、自分が思い描く将来像を実現するためにはどのようなスキルが求められるのか、そのために今からすべきことは何なのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		ワークショップ（Ref）	○	受講者が主体的に活動する参加体験型の科目である。学内外で開催されるワークショップに参加したり、学生や教職員、協力者等と共にワークショップを企画・実行することを通して、他者と協働し、実用的なスキルや、関連した知識、考え方または体験を獲得することを目指す。本科目では「ワークショップ（Will）」「ワークショップ（Can）」「ワークショップ（Must）」において考え、認識したことについて総合的な省察（Reflection）を加え、自らのキャリアに対する意識や行動に変化を生み出すことを目指す。	
		フィールドワークⅠ（Will）	○	本科目は、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、学生同士、フィールドワーク先で出会う人々とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが主体的に課題解決に向けて取り組む。そのために、事前学習では、各フィールド先の現状や課題を情報収集し、ディスカッション等しながら学び、フィールドワークに取り組む。1日程度の短期フィールドワークとして取組み、事後学習では一人ひとりの学びを共有し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Will」に着目し、自分が将来どのような働き方をし、どのような人生を歩みたいのかについて考え、認識させることに重点を置く。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	フィールドワークⅠ（Can）	○	本科目は、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、学生同士、フィールドワーク先で出会う人々とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが主体的に課題解決に向けて取り組む。そのために、事前学習では、各フィールド先の現状や課題を情報収集し、ディスカッション等しながら学び、フィールドワークに取り組む。1日程度の短期フィールドワークとして取組み、事後学習では一人ひとりの学びを共有し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Can」に着目し、今の自分にはどのようなスキルがあるのか、どのような強みや弱みを持っているのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅠ（Must）	○	本科目は、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、学生同士、フィールドワーク先で出会う人々とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが主体的に課題解決に向けて取り組む。そのために、事前学習では、各フィールド先の現状や課題を情報収集し、ディスカッション等しながら学び、フィールドワークに取り組む。1日程度の短期フィールドワークとして取組み、事後学習では一人ひとりの学びを共有し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Must」に着目し、自分が思い描く将来像を実現するためにはどのようなスキルが求められるのか、そのために今からすべきことは何なのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅠ（Ref）	○	本科目は、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、学生同士、フィールドワーク先で出会う人々とのコミュニケーションを図りながら、一人ひとりが主体的に課題解決に向けて取り組む。そのために、事前学習では、各フィールド先の現状や課題を情報収集し、ディスカッション等しながら学び、フィールドワークに取り組む。1日程度の短期フィールドワークとして取組み、事後学習では一人ひとりの学びを共有し、今後の学びについて考える。本科目ではフィールドワークⅠの「Will」「Can」「Must」を通じて考え、認識したことについて総合的な省察（Reflection）を加え、自らのキャリアに対する意識や行動に変化を生み出すことを目指す。	
		フィールドワークⅡ（Will）	○	本科目は、フィールドワークⅠの学びを踏まえ、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、2～5日程度の期間、フィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Will」に着目し、自分が将来どのような働き方をし、どのような人生を歩みたいのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅡ（Can）	○	本科目は、フィールドワークⅠの学びを踏まえ、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、2～5日程度の期間、フィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Can」に着目し、今の自分にはどのようなスキルがあるのか、どのような強みや弱みを持っているのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅡ（Must）	○	本科目は、フィールドワークⅠの学びを踏まえ、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、2～5日程度の期間、フィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Must」に着目し、自分が思い描く将来像を実現するためにはどのようなスキルが求められるのか、そのために今からすべきことは何なのかについて考え、認識させることに重点を置く。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	フィールドワークⅡ（Ref）	○	本科目は、フィールドワークⅠの学びを踏まえ、学外の自治体や企業、各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、2～5日程度の期間、フィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではフィールドワークⅡの「Will」「Can」「Must」を通じて考え、認識したことについて総合的な省察（Reflection）を加え、自らのキャリアに対する意識や行動に変化を生み出すことを目指す。	
		フィールドワークⅢ（Will）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱの学びを踏まえ、学外各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、1～2週間程度、地域散策等もおこないながら、実際に現地で現状や課題を発見し、その解決のためにできることを考えフィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Will」に着目し、自分が将来どのような働き方をし、どのような人生を歩みたいのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅢ（Can）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱの学びを踏まえ、学外各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、1～2週間程度、地域散策等もおこないながら、実際に現地で現状や課題を発見し、その解決のためにできることを考えフィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Can」に着目し、今の自分にはどのようなスキルがあるのか、どのような強みや弱みを持っているのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅢ（Must）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱの学びを踏まえ、学外各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、1～2週間程度、地域散策等もおこないながら、実際に現地で現状や課題を発見し、その解決のためにできることを考えフィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Must」に着目し、自分が思い描く将来像を実現するためにはどのようなスキルが求められるのか、そのために今からすべきことは何なのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅢ（Ref）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱの学びを踏まえ、学外各種地域活動に参加し、実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各フィールド先の現状や課題を情報収集し、自分自身にできることを考え、計画的に取り組むことができるよう準備をする。そのうえで、1～2週間程度、地域散策等もおこないながら、実際に現地で現状や課題を発見し、その解決のためにできることを考えフィールドワークに取り組む。その後、事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、今後の学びについて考える。本科目ではフィールドワークⅢの「Will」「Can」「Must」を通じて考え、認識したことについて総合的な省察（Reflection）を加え、自らのキャリアに対する意識や行動に変化を生み出すことを目指す。	
		フィールドワークⅣ（Will）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲの学びを踏まえ、さらに高度な実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各自が主体的に各フィールド先の情報を収集し現状を把握し、課題を発見し、利用可能な資源や各種の制限を踏まえた上で現実的な課題解決のための計画を立案する。その後、自ら立案した計画を実行するために長期間（3週間程度）にわたるフィールドワークに取り組む。事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、卒後まで視野に入れたさらなる学びと成長の方向性を提示する。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Will」に着目し、自分が将来どのような働き方をし、どのような人生を歩みたいのかについて考え、認識させることに重点を置く。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
女性キャリアデザイン連携科目	実践・統合科目	フィールドワークⅣ（Can）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲの学びを踏まえ、さらに高度な実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各自が主体的に各フィールド先の情報を収集し現状を把握し、課題を発見し、利用可能な資源や各種の制限を踏まえた上で現実的な課題解決のための計画を立案する。その後、自ら立案した計画を実行するために長期間（3週間程度）にわたるフィールドワークに取り組む。事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、卒後まで視野に入れたさらなる学びと成長の方向性を提示する。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Can」に着目し、今の自分にはどのようなスキルがあるのか、どのような強みや弱みを持っているのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅣ（Must）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲの学びを踏まえ、さらに高度な実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各自が主体的に各フィールド先の情報を収集し現状を把握し、課題を発見し、利用可能な資源や各種の制限を踏まえた上で現実的な課題解決のための計画を立案する。その後、自ら立案した計画を実行するために長期間（3週間程度）にわたるフィールドワークに取り組む。事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、卒後まで視野に入れたさらなる学びと成長の方向性を提示する。本科目ではキャリアデザインの3要素のうち特に「Must」に着目し、自分が思い描く将来像を実現するためにはどのようなスキルが求められるのか、そのために今からすべきことは何なのかについて考え、認識させることに重点を置く。	
		フィールドワークⅣ（Ref）	○	本科目は、フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲの学びを踏まえ、さらに高度な実践力、行動力を身につけることを目的とする。そのために、事前学習では各自が主体的に各フィールド先の情報を収集し現状を把握し、課題を発見し、利用可能な資源や各種の制限を踏まえた上で現実的な課題解決のための計画を立案する。その後、自ら立案した計画を実行するために長期間（3週間程度）にわたるフィールドワークに取り組む。事後学習では、学びを振り返り、まとめ、発表等を通じて共有し、自己覚知し、卒後まで視野に入れたさらなる学びと成長の方向性を提示する。本科目ではフィールドワークⅣの「Will」「Can」「Must」を通じて考え、認識したことについて総合的な省察（Reflection）を加え、自らのキャリアに対する意識や行動に変化を生み出すことを目指す。	
	専門演習・卒業研究	発展演習Ⅰ	○	1年次の基礎をベースに、アカデミックスキルの向上とキャリア形成に関する知識、技能、態度を身につけることを目指す。そのために、調査、読解、文章作成などのアカデミックスキルを高める。また、キャリアに関する考え方の理解やフィールドワークを通して、自身のキャリアデザインに関する自己課題を把握するとともに、コミュニケーションやプレゼンテーションに関する知識や技能を向上させる。	
		発展演習Ⅱ	○	この科目では、アカデミックスキルやキャリア形成に関する知識、技能、態度を、前期の発展演習からさらに高めることを目指す。そのために、調査や文章作成などのスキルを向上させる。また、フィールドワークや社会人とのコミュニケーションなどを通して、多様なキャリアについて理解を深める。さらに、社会や企業などの問題に焦点を当て、他者と協力して課題の発見や解決に向けて実践的に取り組む。	
		専門演習	○	4年次に完成させる卒業研究に向け、ライフキャリアおよびビジネスキャリアの形成に関する課題について研究をおこなうために必要な基礎的な知識や技能、能力、態度を身につけることを目標とする。学生は自らの関心テーマに応じて選択した教員のゼミの所属となり、研究テーマの設定の仕方や研究計画の立て方、実践的研究を含む様々な方法論について、関連文献・資料の講読、学生による発表および学生同士のディスカッション、指導教員による指導等を通して学ぶ。	
		卒業研究	○	ライフキャリアおよびビジネスキャリアの形成に関する課題について、自ら問いを立て、主体的・創造的に解決していくために必要な能力および態度を身につけることを目標とする。学生は、3年次に専門演習で身につけた基礎的な研究能力を活用しつつ、指導教員の指導の下で研究テーマを設定し、研究計画を立て、主体的に研究を推進していく。研究テーマに応じて、フィールドワークを通じた実践的研究やプロジェクト研究等に取り組むこともある。卒業研究の成果は4年間の学びの総まとめと位置づけられ、複数の教員による審査を通じて評価される。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人ノートルダム女学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員
京都ノートルダム女子大学			
国際言語文化学部			
英語英文学科	55	－	220
国際日本文化学科	35	－	140
現代人間学部			
生活環境学科	70	－	280
うち社会情報課程の内数とする入学定員	7	－	28
心理学科	100	－	400
うち社会情報課程の内数とする入学定員	7	－	28
こども教育学科	70	－	280
うち社会情報課程の内数とする入学定員	6	－	24
学部等連係課程実施基本組織			
社会情報課程	20	－	80
計	330	－	1320
京都ノートルダム女子大学大学院			
人間文化研究科			
応用英語専攻(M)	8	－	16
人間文化専攻(M)	3	－	6
心理学研究科			
臨床心理学専攻(M)	10	－	20
心理学専攻(D)	4	－	12
計	25	－	54

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
京都ノートルダム女子大学				
国際言語文化学部				
英語英文学科	55	－	220	
うち女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員	25	－	100	
国際日本文化学科	35	－	140	
うち社会情報学環の内数とする入学定員	5	－	20	定員変更(5)
現代人間学部				
生活環境学科	70	－	280	
うち社会情報学環の内数とする入学定員	12	－	48	定員変更(5)
うち女性キャリアデザイン学環の内数とする入学定員	5	－	20	
心理学科	100	－	400	
うち社会情報学環の内数とする入学定員	7	－	28	
こども教育学科	70	－	280	
うち社会情報学環の内数とする入学定員	6	－	24	
学部等連係課程実施基本組織				
社会情報学環	30	－	120	名称変更 定員変更(10)
女性キャリアデザイン学環	30	－	120	学部等連係課程実施基本組織の設置(届出)
計	330	－	1320	
京都ノートルダム女子大学大学院				
人間文化研究科				
応用英語専攻(M)	8	－	16	
人間文化専攻(M)	3	－	6	
心理学研究科				
臨床心理学専攻(M)	10	－	20	
心理学専攻(D)	4	－	12	
計	25	－	54	